

# USHIO サステナビリティレポート

S u s t a i n a b i l i t y R e p o r t

2 0 0 7

未来は「光」でおもしろくなる  
**USHIO**

## 「光」でできること、「光」だからできること

高精度化、超微細化、低温処理化がどんどん進む技術革新の真ただ中で、  
光がこれらのボトルネックを解決する新しい有効な手段として、  
さまざまな分野で重要な役割を担いはじめています。  
これからの光創造企業集団 USHIOに、どうぞご期待ください。

インターネットでUSHIOのホームページをご覧ください。  
<http://www.ushio.co.jp>

『USHIO サステナビリティレポート 2007』に関する  
ご意見、お問合せは下記までご連絡ください。

発行:ウシオ電機株式会社  
管理総括 社長室 環境マネジメント統括室

〒100-8150 東京都千代田区大手町2-6-1  
TEL (03)3242-1892 FAX (03)3242-0695



この印刷物は、FSC認証紙を使用し、植物油100%の「大豆油インキ」を使い、ISO14001認証工場において「水なし印刷」で印刷しています。  
また、省資源化(フィルムレス)につながるCTPにより製版しています。

07-06-100000 ①

みんなで止めよう温暖化  
チーム・マイナス6%

環境経営報告書 2007

未来は「光」でおもしろくなる

**USHIO**

# USHIO

## サステナビリティレポート 2007

|                    |   |
|--------------------|---|
| 会社概要／主要グループ・ネットワーク | 1 |
| トップメッセージ           | 2 |

### サステナブルビジョン

|                   |   |
|-------------------|---|
| USHIOが目指すサステナビリティ | 4 |
| USHIOのCSR         | 6 |
| コンプライアンス          | 7 |
| トピックス             | 8 |

### 経済性報告

|           |    |
|-----------|----|
| 事業ビジョン    | 10 |
| IR活動など    | 11 |
| 2006年度の実績 | 12 |

### 社会性報告

|           |    |
|-----------|----|
| 品質保証      | 14 |
| 人事        | 16 |
| コミュニケーション | 17 |
| 社会貢献      | 18 |

### 環境報告

|              |    |
|--------------|----|
| 推進体制・行動計画    | 20 |
| 環境マネジメントシステム | 24 |
| 環境教育         | 25 |
| グリーン調達       | 26 |
| 環境配慮型製品開発    | 27 |
| 地球温暖化対策      | 28 |
| ゼロエミッション     | 29 |
| リサイクル        | 30 |
| 環境リスクマネジメント  | 31 |
| 環境パフォーマンス    | 32 |
| 環境会計         | 33 |
| サイトデータ(生産)   | 34 |
| サイトデータ(非生産)  | 38 |
| 第三者意見        | 40 |

### 〈編集方針〉

USHIOグループの環境報告について、これまで2003年度に事業所単独でのサイト環境レポート発行を皮切りに、翌年度にはUSHIO電機全社の環境活動を「環境報告書2004」にまとめ報告。さらに2005年度では、環境側面に加え、経済側面、社会側面の活動報告も加えたサステナビリティレポートに発展させました。この「USHIOサステナビリティレポート2007」は、2006年度に続きサステナビリティレポートとして3回目の発行となります。

毎年、掲載内容と報告範囲を一步一步、拡充・充実させてきました。昨年度のレポートより「連結環境経営対象範囲」(P1参照)と定めた国内外のグループ会社全てを網羅し、また、CSR報告も充実させ発刊しました。そして、今年度は報告スタイルの継続性や経過過程を大切にすることはもちろん、より多くのステークホルダーの方々に、より多くの活動を、より長い期間継続してお読みいただくことを念頭に構成。さらにこれまでいただいた貴重なご意見に基づき、できる限り多く反映させられるよう編集しました。

- 対象:・お客さま、株主、投資家、お取引先、社員、地域社会、行政、NGO・NPOなどのステークホルダーの方々
- 特徴:・サステナブル経営のための考え方を、経済・社会・環境の3つの側面から取り組み内容を掲載。写真・フロー図・データでの記載を増やし、当社の取り組み姿勢や活動内容をご理解いただきやすいレポート制作を心がけました。
- ・各項目で、Q&A方式(問いかけに答える記載構成)を採用し、読者に少しでもわかりやすいページ構成の工夫をしております。

編集にあたっては、次のガイドラインを参考にしております。

- ・環境省「環境報告書ガイドライン(2003年度版)」
- ・GRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2002」

### 〈報告対象範囲〉

当社全事業所および国内外のグループ会社情報の掲載

### 〈報告対象期間〉

2006年4月1日～2007年3月31日(一部2007年6月までの報告を含む)

※本レポートは、ステークホルダーの方々とUSHIOとの相互のコミュニケーションを図るツールとして、皆さまのご意見や、ご感想をいただき今後の改善活動に活かしていく所存です。アンケートを添付しておりますので、どうぞご利用いただけますようお願いいたします。

## 会社概要

(2007年4月1日現在)

### 設立 資本金 役員

|                 |       |
|-----------------|-------|
| 1964年(昭和39年)3月  |       |
| 19,556,326,316円 |       |
| 代表取締役会長         | 牛尾 治朗 |
| 代表取締役副会長        | 田中 昭洋 |
| 代表取締役社長         | 菅田 史朗 |
| 取締役             | 後藤 学  |
| 取締役             | 多木 正  |
| 取締役             | 大島 誠司 |
| 取締役             | 牛尾 志朗 |
| 常勤監査役           | 四分一 直 |
| 監査役(社外)         | 関口 伸二 |
| 監査役(社外)         | 服部 秀一 |
| 監査役(社外)         | 麻生 紘二 |

### 事業所一覧

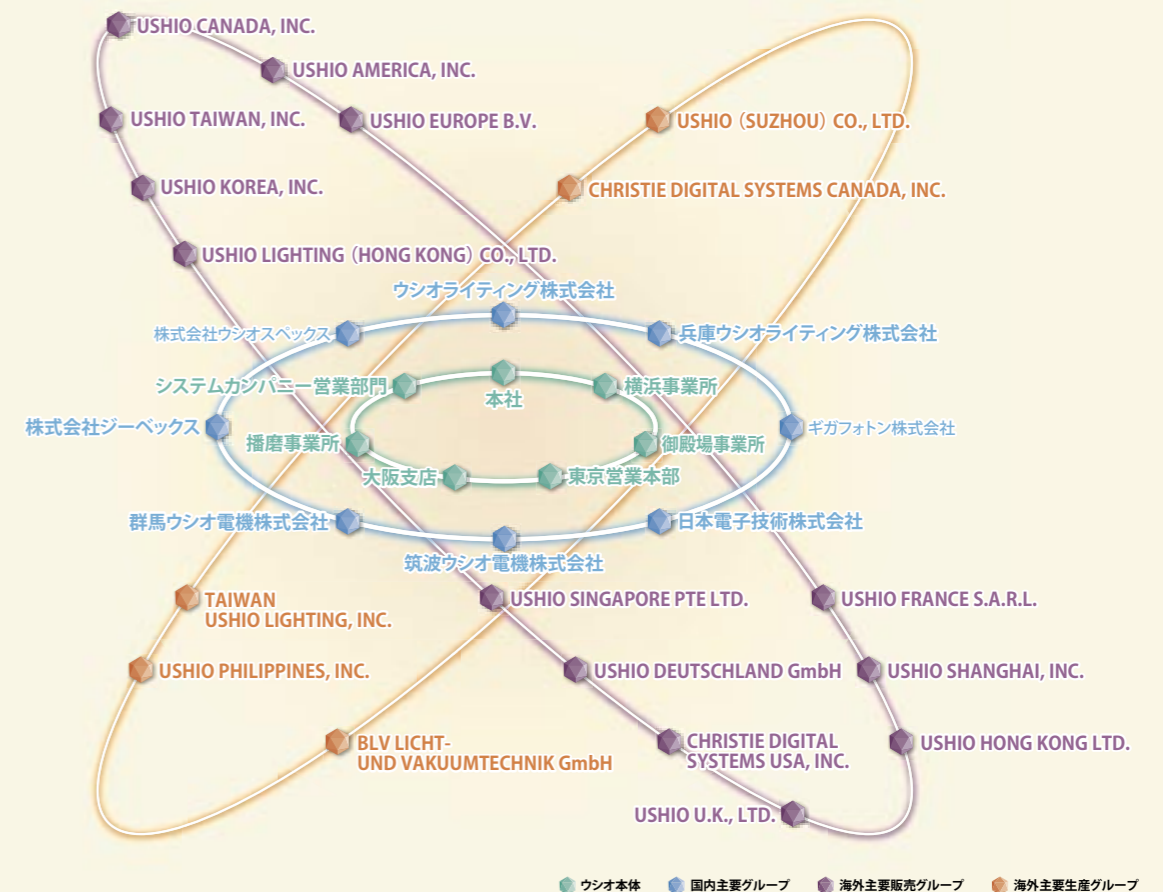
|               |         |
|---------------|---------|
| 本社            | 東京都千代田区 |
| 播磨事業所         | 兵庫県姫路市  |
| 横浜事業所         | 横浜市青葉区  |
| 御殿場事業所        | 静岡県御殿場市 |
| 東京営業本部        | 東京都千代田区 |
| システムカンパニー営業部門 | 横浜市青葉区  |
| 大阪支店          | 大阪市淀川区  |

### 従業員数

(2007年3月31日現在)

|           |        |
|-----------|--------|
| USHIO電機本体 | 1,656名 |
| 国内グループ計   | 489名   |
| 海外グループ計   | 2,637名 |
| 合計        | 4,782名 |

■主要グループ・ネットワーク 表記が太文字のUSHIO電機本社・支店・事業所およびグループ会社は「連結環境経営対象範囲」です。



2007

TOP MESSAGE



代表取締役会長兼  
ウシオグループ代表

西尾 浩久

経営者は「人徳」、  
会社は「社徳」を持つことが、  
ますます大事になっています。

ウシオパワーで何事にも  
チャレンジする姿勢を貫く

昨年、私はこの場で『経営にイノベーション(革新)があるから成功する。イノベーションとはインベンション(新基軸)をアクション(行動)すること』というシュンペーターの言葉を引用し、CSRに取り組む自らの決意を表明しました。

そしてイノベーションを推進するための力として「環境力」、「知力(知識生産性)」、「民力(社会生産性)」を挙げました。2006年度は、これらの力を発揮しながらCSRと真正面から向き合った1年間となりました。そして今でも、この力を基本とし、あらゆることにチャレンジする気持ちに変わりはありません。

戦戦兢兢の精神で取り組む

そして今年、新たな決意で社会貢献、そして環境保全に取り組んでまいりたいと考えています。そのキーワードは「戦戦兢兢」です。

「戦戦兢兢」は、詩経にある言葉で「戦戦兢兢、深淵に臨むが如く、薄氷を履むがごとし」ですが、びくびく恐れるのではなく、

深い淵に臨む時には冷静な洞察力を、薄氷の上を歩くときには、実にデリケートな感覚を持って事にあたるといことです。社会貢献や環境保全という極めてデリケートな問題に挑む企業にとってまさに至言といっているでしょう。

自律できる、社徳のある  
ウシオ電機でありたい

ウシオの社員に自らの重要性として認識してもらいたいのは「自律」です。「自らを律する」ことは、CSRの最も基本的な部分です。従来、産業界や会社組織の中では、お互い助け合い、擁護し合うのが日本の文化でしたが、これからは自律し、もしルール違反をするものがいたらその人に注意する勇気を持たなければいけません。「なあなあで済ます」という昔の価値観は、もはや通らなくなっています。

株式会社は経営者の私利私欲の組織ではなく、会社は社会の公器でなくてはならない。その意味で経営者は「人徳」を、会社は「社徳」をもたなければならないのだと思います。

私たちウシオは、これからも皆さまの声に広く耳を傾けてまいります。ぜひ忌憚のないご意見をお聞かせください。

お取引先さまとともに  
環境生産性の向上へ

現在、全世界的に共通の大きな企業経営課題の一つに環境問題があります。この問題は地球温暖化に象徴されるように、我々が地球上で活動を続ける限り永遠に続くテーマといえます。

環境に関わる規制や基準なども多岐にわたって企業経営に影響するものもあり、より建設的な対応が必要な社会になっています。

産業用光のメーカーであるウシオグループにおいても、環境への対応を品質管理の一部と捉えて積極的に応え、未来社会のニーズを先取りする環境経営を実践していきたいと考えています。

これまで、省エネルギー化など環境負荷の少ない製品や製法の開発・提供、リサイクル処理技術の確立から製品リサイクルシステム構築へ向けた取り組み、環境負荷が少ない原材料・部品などを調達するグリーン調達、全事業活動における省エネルギー対策、ゼロエミッションなど幅広く環境経営を実践しています。

さらにお取引先さまとともに環境生産性の向上に向けた取り組みを進めていく所存です。そして持続的社会的発展に貢献する経営を目指していきます。

従来と異なる発想が生まれ  
新たな価値が創出

環境への建設的な対応と伸展について、例えば私たちの「グリーン調達」活動は、単に環境への負荷が少ない原材料・部品などを調達する「グリーン材料調達」にとどまらず、生産・販売にいたるサプライチェーンまでを視野に入れて展開しています。さらにこれからは、有害物質の排除から含有量水準の管理・コントロールまで含む質的な深化も必要になると考えています。

有害物質を含むものであっても、社会にとって必要不可欠な製品もあります。それを社会へ提供する場合には、有害物質の使用量は最小限になるよう努めるとともに、代替製品使用による機会費用や将来の社会費用を勘案し、常に地球環境を守る姿勢を持って、適確な判断を行うことが重要です。

「有害最適物質」すなわち「有害であるが生産コスト的には最適物質」を使う代わりに、「無害代替物質」すなわち「経済性では劣るものの無害であり、代替となる物質」を使用することは、長期的観点からは社会コストの削減、ひいては企業の将来の潜在的な補償リスクを低減します。さらに、「環境対応と利潤追求の同時達成」という高い目標を掲げることで、材料や生産ライン・販売プロセスの見直しを行う必要性が生じ、従来と異なる発想が生まれ新たな価値が創出される可能性が高まります。つまり、環境対応の行動は、企業にとって経済合理性に合致した行動といえます。

社内にイノベーションを誘発し、  
組織を活性化

企業経営において環境対応の費用は、その活動のための必要コストという側面が強調されがちですが、一方で、環境対応は省資源、省エネルギーといった基本的にコストダウンと同じ方向性をもつ場合が多い上、長期的な観点からの経営コスト削減、さらには経営革新につながるという積極的な側面があることを見逃してはならないと思います。

また、「優先するのは経済的成長か、環境保全か」という議論は今に始まった話ではありませんが、私たちにとって必要なのは、環境対応を満たしながらの経済発展です。つまり環境経営は、環境にやさしいだけでなく、継続的な企業利潤に結びつき、社会に

経済成長をもたらすものでなければならないのです。

環境経営への挑戦は「環境対応と利潤追求の同時達成」という高い目標を掲げることにより、社内にイノベーションを誘発し、組織を活性化させて新たな価値を生み出します。

地球環境を守り持続可能な社会形成に向け、経営者自身が未来社会を正しく見据え、長期的な環境施策を適確に策定し実行することが最も大切なことと認識しています。これからも「光のイノベーション」を通じて、豊かな社会・産業・生活の発展に貢献し、環境保全をはじめとした社会的責任を果たし、ウシオグループの企業価値を一層高めてまいります。

引き続き皆さまのご理解ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

環境生産性の向上をお取引先さまとともに  
イノベーションを誘発し、新たな価値を創出します。

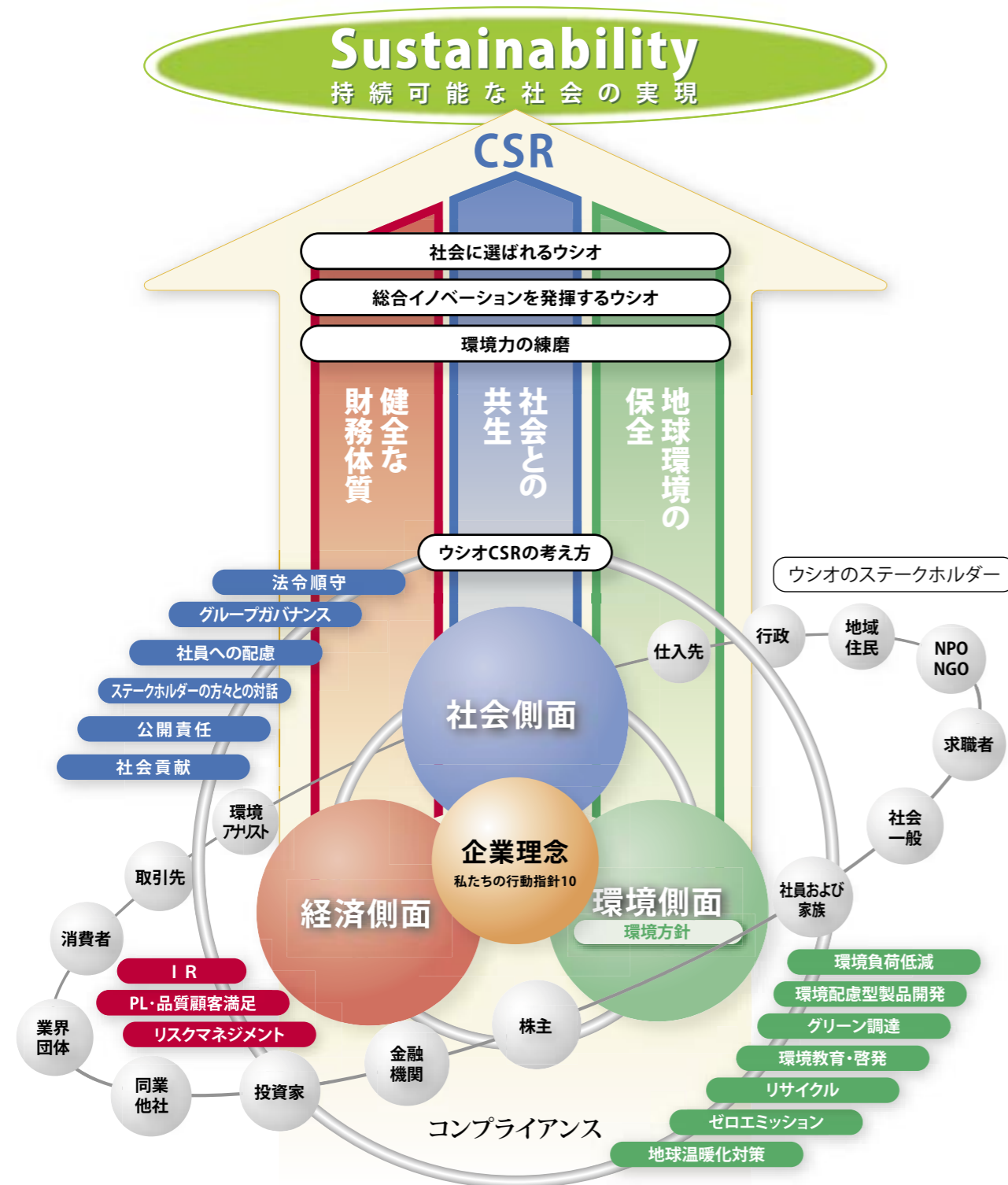
代表取締役社長  
(環境委員会委員長、グループ環境会議議長)

菅田史朗



## ウシオが目指すサステナビリティ

企業理念や行動指針などを根幹とし、経済・社会・環境の3つの側面から企業の社会的責任を果たし、社会に選ばれるウシオになることが、サステナビリティの実現につながると考えています。



ウシオは、経済・社会・環境のトリプルボトムラインを基盤にサステナブル経営を強化して「持続可能な社会」の実現に貢献します。  
ウシオは、人間の活動と地球の営みがバランスのとれた形で共存できる社会（持続可能な社会）を実現するという視点から、経済・社会・環境に配慮したサステナブル経営戦略を今後もより広く浸透させ、企業理念・行動指針・環境方針の3つを、一人ひとりが根幹から考え「人間力」の強化をもって実践します。また、ウシオグループ全体で成し遂げるための「総合力」をさらに強化していきます。今後もより進化した姿をステークホルダーの方々々に伝えつづけるようにいたします。

## USHIO GROUP 企業理念

- ① 会社の繁栄と社員一人ひとりの人生の充実を一致させること。
- ② 国際市場において十分競争力のある製品・サービスを提供すること。
- ③ 優れた製品、新しい研究開発を通じ進んで社会に貢献すること。
- ④ オープンで自由な企業活動を通じ競争力を高め安定利潤を確保すると共に企業の社会的責任を果たすこと。

ウシオ電機およびウシオグループ社員のあらゆる活動の根幹となる企業理念は、創業から40年を経過した2004年度に、時代の変化によって鮮明になってきた社会的課題、「企業の社会的責任を果たすこと」などを軸とし、制定しました。第二の創生期と位置付けて新しい事業戦略や組織改革を再スタートさせています。

## 社会の一員として私たちの行動指針10

- ① 私たちは、多様な個性と価値観を受け入れ、共働する会社を目指し、自己研鑽と自己改革に努めます。
- ② 私たちは、革新的で、挑戦的で、スピーディーな経営に取り組み、会社としての持続的な発展に努めます。
- ③ 私たちは、すべての人々の基本的人権を尊重し、明るく安全快適な職場環境を作ります。
- ④ 私たちは、良質で安全な製品・サービスを適正な価格で提供し、公正・公平な取引を行ないます。
- ⑤ 私たちは、社会から理解と信頼を得られるように努めます。
- ⑥ 私たちは、法令を遵守し、社会的良識に従って、公正な企業活動を行ないます。
- ⑦ 私たちは、会社の定める規則や基準に従い、誠実に職務を遂行します。
- ⑧ 私たちは、環境保全と資源の有効活用に取り組みます。
- ⑨ 私たちは、積極的な広報活動を行なうとともに、第三者の情報の価値や権利を尊重します。
- ⑩ 私たちは、国際社会の一員として、それぞれの地域の発展に貢献します。

一人の誤った行動が、会社の基盤を揺るがすこともあります。あらゆる事業活動において、社会や環境などのルールに反する行動があってはなりません。この行動指針は、ウシオ電機社員一人ひとりが順法精神や高い企業倫理を持ち、企業理念に基づく行動のあり方を示したものです。

## ウシオ電機環境方針

### 基本理念

ウシオは地球環境との共生が企業としての最重要課題の一つであると認識し、事業活動のあらゆる場面における、環境保全への取り組みを通じて、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

### 行動指針

- ① 国内外の法規制や環境上の規範の遵守はもとより、さらに自主的な基準を設定し、その実現に努めます。
- ② 全事業領域において、廃棄物・有害物質の削減、省資源、省エネルギーおよびリサイクルを推進し、環境負荷の低減に努めます。
- ③ 環境に配慮した「光技術・光製品」の開発・提供に継続的に取り組みます。
- ④ 化学物質や廃棄物による自然環境の汚染など、環境リスクの予防に努めます。
- ⑤ 環境保全への取り組みについて定期的な監査を実施し、環境マネジメントシステムの継続的改善に努めます。
- ⑥ 社会の皆さまに、環境への取り組みについての情報を提供し、対話と相互理解のもと、さらなる環境活動の向上に努めます。
- ⑦ 従業員一人ひとりが、環境保全のために果たすべき役割を自覚し、循環型社会の実現に向けて貢献します。

2005年3月1日  
ウシオ電機株式会社  
代表取締役社長（環境委員会委員長）

菅田史朗

「ウシオ電機環境方針」のほかに、各カンパニーおよびグループ会社においてもそれぞれ環境方針を定め実践しております。この「ウシオ電機環境方針」は、その最上位の方針として位置付けられ、グローバルに整合を図り反映させています。

ウシオのCSR

CSRには、環境・雇用・消費者・人権・企業統治・コンプライアンス・リスクマネジメント・情報公開・企業倫理・地域貢献など、さまざまな側面があります。

ウシオは、掲げているサステナブルビジョンの中で欠かすことのできないCSRの活動をより強化しています。それは本来業務と一体で取り組む、社員一人ひとりの心がこもった地道なCSR活動が、社会と企業の持続的発展に貢献できると考えているからです。

ウシオのCSRの考え方

- 法令を順守し、法令以外の一般的な規範、公序良俗を守り、社会に対して責任ある事業活動を行います。
- 環境保全の取り組みを通じて、持続可能な社会の実現に貢献します。
- お客さまや株主をはじめとするステークホルダーとの対話を推進し、社会からの信頼を得よう努めます。
- 適切な情報開示を行い透明度の高い経営を実施し、社会からの信頼を得よう努めます。
- 地域社会の一員として、地域に貢献するとともに、地域社会との共存共栄に努めます。
- 社員の人格と個性を尊重し、働きやすい職場環境の整備に努め、会社の繁栄と社員一人ひとりの人生の充実を一致させます。

■主なCSR活動テーマの抜粋



Question

法や社会常識に反することをしないために何をしていますか？

Answer

「わたしたちの行動指針10」を制定するとともに、コンプライアンス教育を実施しています。

活動の指針と目標

コンプライアンス経営体制の一層の強化

2006年度は4月に公益通報者保護法、5月に会社法が施行、また12月には消費生活用製品安全法が改正され、企業における法令順守が一層求められる社会環境になりつつあります。

そのため、ウシオにおけるコンプライアンス経営体制の一層の強化を図ります。

活動の概要と具体事例

ウシオヘルプライン

「ウシオヘルプライン」制度を2006年10月に開設しました。これは、国内ウシオグループの全社員が、職場における法令違反や社内規則違反、企業倫理違反等の行為について、直接相談や通報ができる外部窓口であり、不正行為などの早期発見と是正、相談者や通報者の保護を目的としています。

ウシオグループ行動指針

「USHIO GROUP企業理念」に対応させて、ウシオ単体の「私たちの行動指針10」を2007年度からグループ全体の行動指針とするための改訂作業を進めています。

コンプライアンス教育

ウシオ全事業所の部室AGM(次長)以上の管理職層を対象に、コンプライアンスの目的・必要性、管理職の役割に関する教育講習を、2006年11月から2007年2月にかけて、10日間延べ12回にわたり、コンプライアンス委員会が独自に作成した資料を用いて実施しました。



コンプライアンス教育

会社のコンプライアンスへの取り組み

- \*「私たちの行動指針10」で、役員・社員が順守すべき倫理的な規範、および具体的な行動指針を設定し、社員に配布。新入社員教育の場で、その内容について説明。
- \*「輸出関連法規順守のための社内規則」を制定し、この規則に従った輸出管理を行う「安全保障輸出管理委員会」を設置、運営。
- \*環境関連法規や、顧客要求などを順守するため、環境方針を制定。環境マネジメントシステムを構築し、これらに従った

- 事業運営のための「環境推進委員会」等を設置・運営。
- \*行動指針の徹底やコーポレートガバナンスなど、コンプライアンスの推進に関する事項を分掌する「コンプライアンス委員会」を設置・運営。
- \*新たに、コンプライアンスに反する不正行為の早期発見と是正のための「ウシオヘルプライン」制度を制定・運営。

消費生活用製品安全法

2007年春に消費生活用製品安全法施行される状況下、同法順守のための社内体制作りを、2007年2月からPL委員会が中心となり進めてきました。

リスク管理・危機対応

リスク管理および危機対応は、コンプライアンス・環境・品質・財務・法務・災害・情報および輸出管理等の分野ごとに、それぞれの担当部署において、規則やガイドラインの制定、研修の実施、マニュアルの作成や配布などを行ってきています。2007年度には、これら担当部署を含めた全ての部署で、リスクの管理および危機への対応を一層推進するため、「リスク管理規程」および「経営危機対応規程」の制定準備作業を進めています。

これからの取り組み

コンプライアンス教育の拡大継続

コンプライアンス教育講習の対象者を、M(課長)クラスの管理職および専門職層に拡大し、役職者層全体としてのコンプライアンス意識の向上を目指します。その上で、一般社員層への拡大も検討してまいります。

Message

教育は成長・発展のかけ

法令、社内規則、企業倫理を順守して企業活動を行い、「消費者・取引先・株主・社員・社会」などステークホルダーの方々の期待に応えることが、企業の継続的発展につながることを教育により社内徹底していきたい。

コンプライアンス委員会  
南雲 秀夫



## 2006年度のトピックス

2006年度、ウシオグループの持続可能性の発展に貢献する活動について、その一部をハイライトとして紹介します。より広範囲にグローバルな活動展開と「攻め」の環境活動につながってきたことが2006年度の特徴としてあげられます。

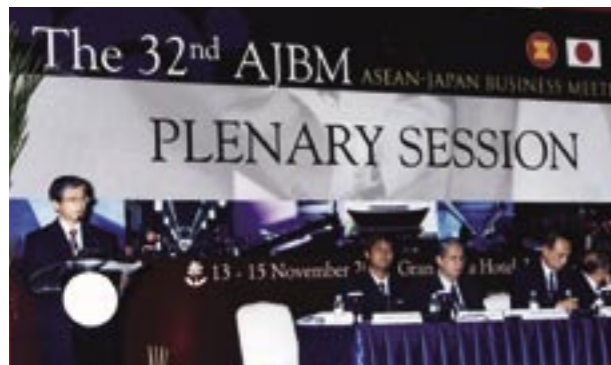
## ステークホルダーの方々へ向けて

2006年度は、世界各地でウシオを知っていただく機会が多い年度となりました。今後も幅広いステークホルダーの方々に向け、様々な手法でアプローチをしていきます。

## 第32回日本・ASEAN経営者会議でスピーチ

2006年11月、社長の菅田史朗が日本を代表して『21世紀環境経営の提言 日本とアセアンの役割』と題したスピーチを行い、各国から幅広い共感と支持を得ました。

現在、全世界的に共通の企業経営課題の一つである環境問題を取り上げ、アセアンと日本の経済協力という枠組みの中で、企業経営者はどのように環境問題に取り組み、対応していくべきなのかをスピーチ。全ての企業経営者が環境対応経営を実践していくことを提言しました。



第32回日本・ASEAN経営者会議でスピーチ

## 中国初の環境博覧会にウシオ蘇州が出席

2006年7月、中国で初の試みとなる環境をテーマとした「2006中国国際循環経済博覧会」に、蘇州市近郊の行政や民間企業500を超える団体が出席。ウシオ蘇州(USZ)もウシオ電機本社とプロジェクトチームを組み、出席しました。

博覧会では、ウシオグループの環境保全活動のPRや、環境配慮型製品の紹介など、企業の方から一般の方まで、多くの来場者へウシオの環境メッセージを送ることができました。



2006中国国際循環経済博覧会

## 攻めの環境経営へ

ウシオは経営と一体化した「環境力」として経済・社会・環境にプラスに働く環境経営に取り組んでいます。特に2006年度は、「環境生産性の向上」・「環境負荷指標の向上」を意識して、具体的な取り組みへ着手しました。

## 環境経営システム「USHIO ECO-SYS」の導入

2007年度データ収集分より正式に導入した環境経営システム「USHIO ECO-SYS」とは、富士通(株)さまの支援のもと、タイムリー(月1回)なパフォーマンスデータ等を収集・集計し、分析して環境保全活動(現場のEMS活動)にフィードバックしていくシステムです。それらデータをもとに、さらに環境効率指標やセグメント指標により分析。企業においての今、そして今後に向けての保全活動を計画的に行うことができます。

環境活動によってもたらされる経済的・社会的プラス面を経営戦略に取り込み、サステナブルな社会を築き上げるため、企業の「環境への取り組みと経済活動の融合」を目指していきます。



「USHIO ECO-SYS」ログイン画面

「USHIO ECO-SYS」画面



グループ会社に向けた「USHIO ECO-SYS」説明会

## マテリアルフローコスト会計の実施

ウシオ電機では、生産改善活動(TPM等のロス削減活動)にマテリアルフローコスト会計<sup>※</sup>を連携強化する活動をスタートしました。環境取り組みの「攻め」の強化です。

2006年9月播磨事業所にて、環境管理会計の第一人者である神戸大学大学院教授 國部克彦先生をお招きし、社長・工場トップをはじめ生産に携わる管理者等に向け社内セミナーを開催しました。

現在モデルラインに導入し、改善ポイントの「見える化」を図っています。環境視点からの生産性向上を図り、環境調和型プロセスにより市場競争力のある製品・サービスを生み出すことが目的です。今後、環境負荷低減とコストダウンの同時実現を目指します。



マテリアルフローコスト会計社内セミナー

<sup>※</sup>マテリアルフローコスト会計(MFCA)  
職場に投入された資源(マテリアル・エネルギー・労務費など)を各工程で、製品へのフローと排出物へのフローに分け、物量と金額の側面から把握し、どれだけ有効に資源が活用されたのかを分析する手法。

## ホームページのリ・デザイン

2007年4月、ウシオ電機ホームページを『リ・デザイン(再構築)』しました。かつての「メッセージ志向」といった企業主体の情報開示から「ソリューション志向」というお客さまの問題解決につながるための場として、また相互コミュニケーションの場としての再構築です。

環境コーナーにおいても内容を充実させ、ウシオのグリーン調達基準などをダウンロード<sup>※</sup>できるようにするなどしています。

<sup>※</sup>HPアドレス  
<http://www.ushio.co.jp/>



ウシオ電機ホームページ

## 社会評価

ウシオの取り組みが、色々な形で評価されてきました。企業の社会的責任を果たす経営への取り組みにさらなる努力をしていきます。

## ウシオ電機本社が「環境マネジメント大賞:特別賞」を受賞

(株)システム規格社が主催する、第2回ISO14001登録組織表彰「環境マネジメント大賞」において、ウシオ電機本社の取り組みが評価され、特別賞の「本社EMS賞」を受賞しました。

特に「環境経営基盤(グループ環境ガバナンス)の強化8項目」を制定し、ウシオグループでの環境保全活動を目指す姿勢や、UGNニュース(P17参照)といったグループ間での有効なコミュニケーションが取られているといったことが評価されたものです。

この度の賞をいただいた事を機に、今後もより一層環境活動に取り組んでいきます。



(左)審査委員長の帝京大学 吉澤 正 教授 (右)当社社長菅田

## CDSカナダが優良企業として選出

CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA, INC.は、カナダの有効経済新聞「フィナンシャルポスト」の「2007年働きやすい企業TOP10」に選ばれました。これは、市場での際立った成長性といった経済面のほか、日ごろの優れた人材採用と安定雇用、社員の健康管理などの社会面が評価されたものです。

今後も製品やサービスはもちろん、社員の質の高さのさらなる向上を目指していきます。

## 事業ビジョン

ウシオはグループで、毎年、事業環境を踏まえた戦略の見直しを行いながら、ビジョン達成に向け目標を設定しています。2006年度(44期)、ウシオ電機は好調な市場を背景に、5期連続増収・増益を達成しました。2007年度は、2010年に向けた「中期ビジョン」の重点事業戦略項目を以下のとおり掲げ、これら戦略を推進する人材の育成についても、高度な専門知識を習得する教育・研修と、グローバル規模での管理者養成に一層力を入れていきます。

### デジタルシネマ事業の普及促進と収益拡大

映画の本場である米国に加えて、今後は収益拡大を図るとともに、日本・欧州・アジア市場においても展開し、映像情報文化の拡大に貢献していきます。

### ソリューションビジネスの拡大

播磨事業所の共同実験設備などを活用したクライアントとのコラボレーションにより新たな価値創出を目指すなど、光の総合技術をもつ当社にしかできないサービスを強化していきます。

### データプロジェクタ用ランプのシェア再拡大

ここ数年、国内の開発・生産体制の強化と、ランプの海外生産シフトを通じた全体最適化による競争力向上に向けて大型投資を推進してきましたが、いよいよ収穫期を迎えつつあります。価格競争力の強化、高輝度化等の市場ニーズに迅速に対応しながら、さらなるシェアの拡大を目指していきます。

### 液晶・半導体製造を支える製品の拡充

液晶パネルの大型化や半導体メモリの需要拡大に伴い、

その製造を支える光源のニーズも高度化、多様化しており、それに応える新製品の開発を進めていきます。

### 最先端露光事業(EUV)開発強化

次世代半導体のキーテクノロジーとなるEUV光源においても、当社グループは日・欧で実用化研究を推進しており、半導体業界から大きな注目を集めています。長期的な視野での開発を着実に進めていきます。

### 新製品・新分野の早期事業化

生活・医療・環境など「クオリティー・オブ・ライフ(充実した質の高い生活)」につながる分野に注力し、その第一弾として赤外線治療装置を製品化しました。引き続き診断装置や検査・分析装置の製品化を目指していきます。

### 企業価値の増大と持続的な成長へ

ウシオグループは、品質を重視しつつ一段と開発・生産・販売効率の向上とコスト低減に取り組み、グループ全体で生産と販売を考慮した最適地生産を行い、シェアの拡大と利益の強大化を目指します。同時に経営の透明性と効率性を確保し、環境負荷低減などの社会的責任にも積極的に対応し、ステークホルダーの方々のご期待に応え、企業価値の増大と持続的な成長に努めます。

## ウシオグループのビジネスフィールド

ウシオは、産業用ランプの開発を柱にした光源メーカーとしてスタートし、独自の光学技術の開発・応用にも努めユニットや装置、システム、さらには光のソリューションを提供する「光創造企業集団」へと発展してきました。

また、お客さまのニーズにスピーディーにお応えするため、分社化・グループ化を積極的に推し進めるとともに、その有機的な連動を図っています。

#### 事業概要

#### <照明分野>

- 店舗・商業用照明システム
- 舞台・スタジオ・式場などの照明システム

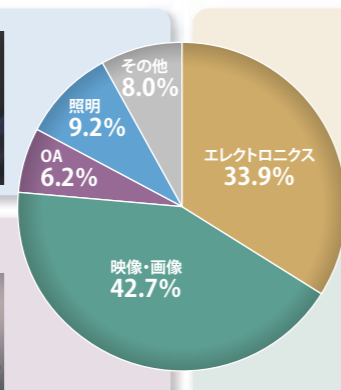
安定器内蔵セラミックメタルハライドランプ「U-ONE」



#### <OA分野>

- 複写機・プリンターの原稿読み取り用露光光源
- トナーの定着用熱源

コピー機用希ガス蛍光ランプ



#### <エレクトロニクス分野>

- 超高压UVランプ
- 液晶製造装置
- 露光装置

LCDリソグラフィ用超高压UVランプと露光装置光源部



#### <映像・画像分野>

- データプロジェクター用NSHランプ
- クセノンショートアークランプ
- シネマ・産業用映像機器

データプロジェクター用高輝度放電ランプ(NSHランプ)



## Question

IR活動の中で、最も気をつけていることは何ですか？

## Answer

まずは、当社を理解していただく為に、「分かりやすい」説明を心がけています。

#### 活動の指針と目標

### 機関投資家・株主との双方向コミュニケーションを

ウシオは、IR活動を通じて、「正確・適時・継続・公平」を基本に、信頼できる情報の発信を積極的に行うとともに、双方向コミュニケーションを目指しています。

#### 活動の概要と具体事例

### コミュニケーション活動を積極的に推進

2006年度は、国内外のアナリストや機関投資家の方々の来社取材およびスモールミーティングへの対応(約180件)を行う一方、社長による機関投資家訪問やカンファレンスへの出席など、積極的な投資家とのコミュニケーションを図ってまいりました。また2003年度に引き続き、ウシオ電機主力工場である「播磨事業所」の施設見学を実施し、現場を見ていただくことにより、当社製品の「ものづくり」に対する考え方をはじめとした、当社に対する理解をより深めていただけたものと思います。

特に2006年度は、相互コミュニケーション強化の一環として、初めての試みとなる、海外IRをシンガポールとニューヨークにて実施いたしました。当社の外国人持ち株比率が年々高まる中、既存の株主を含め、より積極的なコミュニケーションの推進を図った年度でもありました。

ションを積極的に推進してまいりました。なお、5年前ののべ人数はおよそ半数の360人でした。



ニューヨークでの投資家向け説明会(2006年11月)

### 「FTSE4Good Index」選定企業としてより一層の努力

ウシオ電機は国際的社会的責任投資(SRI)の指標である「FTSE4Good Index」に2004年から4年連続して選定\*されています。

企業理念改訂時にも社会的責任という項目を追加し、CSRの観点で努力し続けていることが認められた証と捉えています。

今後も「環境的側面」「社会的側面」「人権」において、より一層の取り組みを実践します。

\*2004年9月にスタートした新指標「Japan Index」にも選定されています。



#### これからの取り組み

### IR情報のタイムリーで積極的な情報開示を進めます

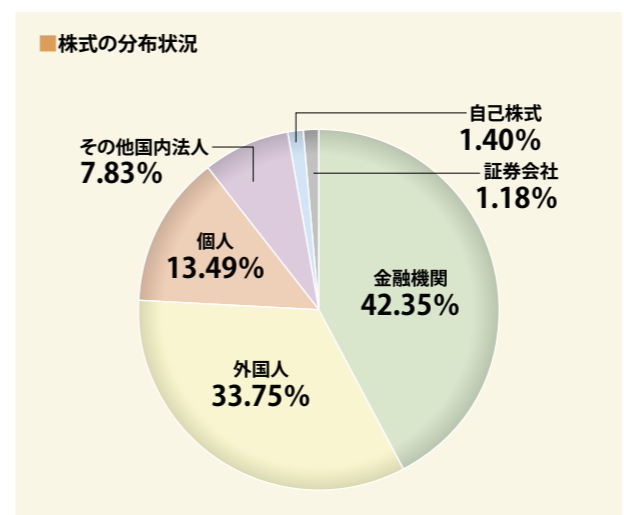
今後は、引き続き機関投資家の方々への経営トップを含めた双方向コミュニケーションの推進を図るとともに、個人投資家の皆さまに対して、当社への理解をより深めていただくためにも、ホームページの全面改訂によるIR情報のタイムリーで積極的な情報開示を進めてまいります。

#### Message

ウシオを理解していただくことから…

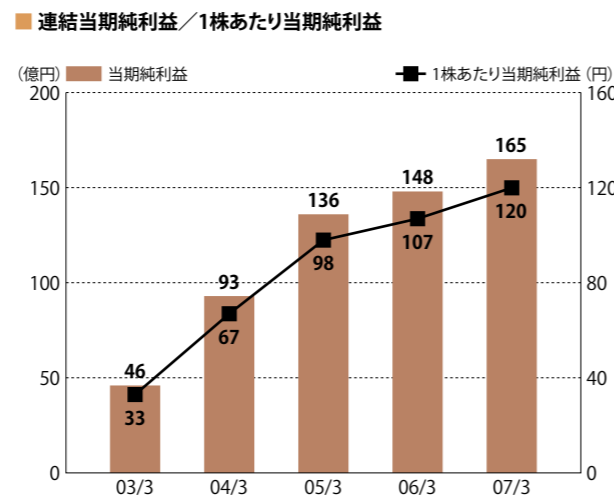
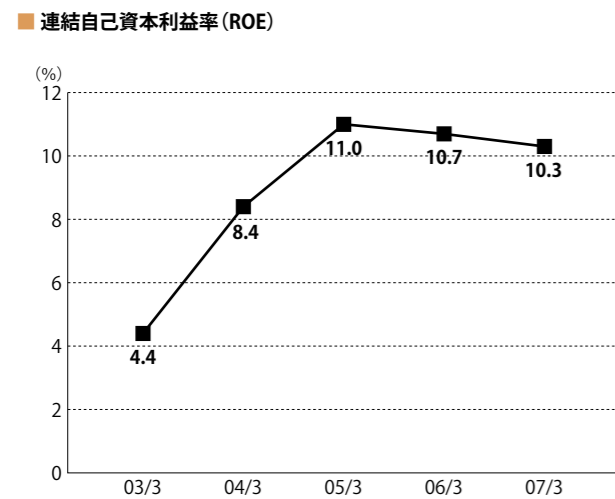
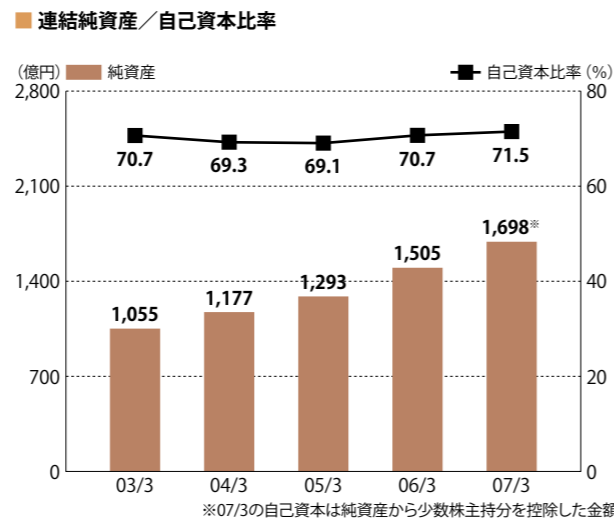
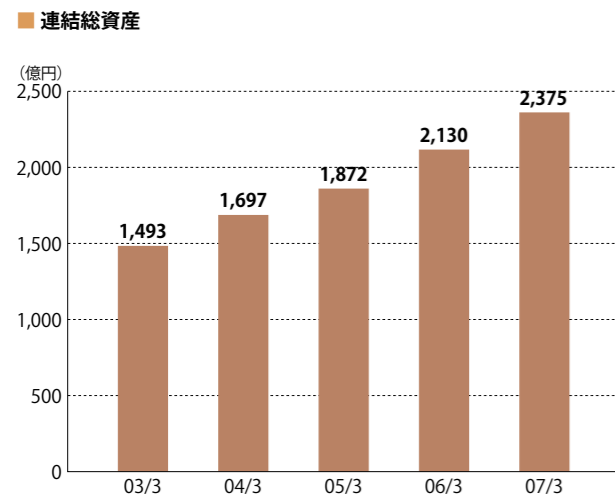
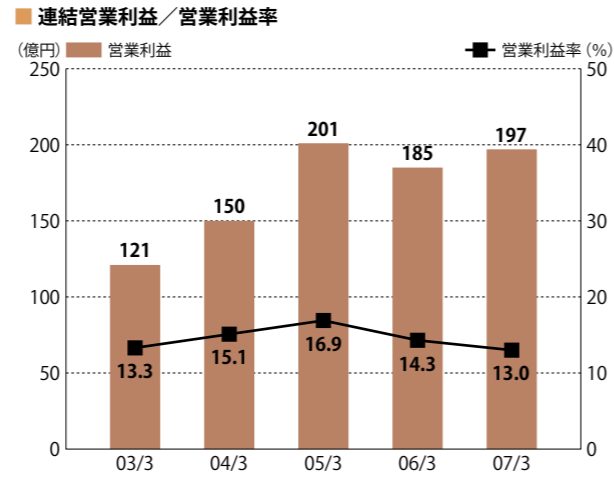
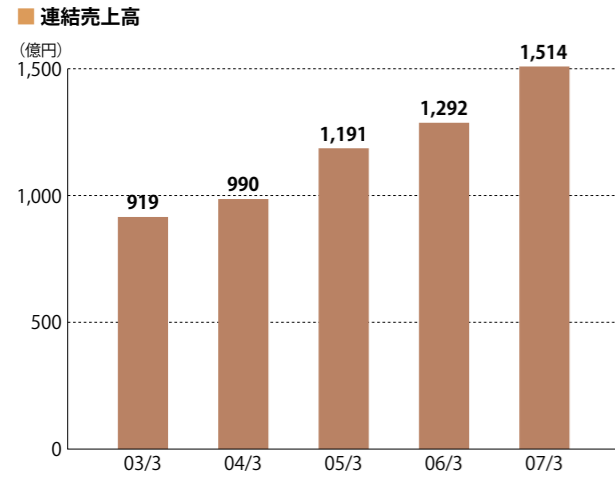
ウシオの製品は、産業用の光源や装置が主体であり、分野も多岐にわたっているため、事業活動を理解しにくいと言われていきます。まずは、ウシオの素晴らしさを投資家に理解していただくことが大事だと思っています。

前経営企画室(現ランプカンパニー管理本部) 久保 宏之



これらのIR活動により、2回/年の決算説明会を含め、この1年間に、のべ約700名のアナリスト・投資家の方々とのコミュニケー

主な経営指標の推移



連結決算

■ 連結貸借対照表の要旨 (単位:百万円)

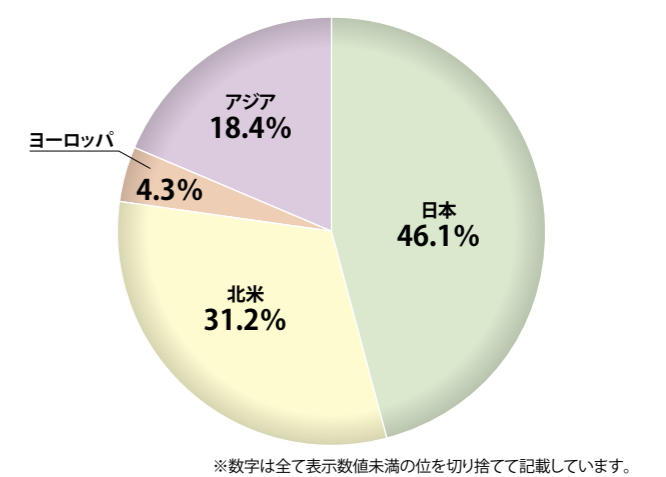
| 科目            | 第44期<br>(2007.3.31現在) | 第43期<br>(2006.3.31現在) |
|---------------|-----------------------|-----------------------|
| <b>(資産の部)</b> |                       |                       |
| 流動資産          | 118,220               | 102,875               |
| 現金および預金       | 29,195                | 22,182                |
| 受取手形および売掛金    | 42,900                | 39,793                |
| 有価証券          | 6,567                 | 5,539                 |
| たな卸資産         | 29,469                | 26,511                |
| その他           | 10,088                | 8,848                 |
| 固定資産          | 119,299               | 110,151               |
| 有形固定資産        | 36,142                | 34,200                |
| 建物および構築物      | 14,782                | 14,140                |
| 機械装置および運搬具    | 5,983                 | 5,899                 |
| 土地            | 8,805                 | 8,785                 |
| その他           | 6,570                 | 5,374                 |
| 無形固定資産        | 2,142                 | 2,325                 |
| 投資その他の資産      | 81,015                | 73,625                |
| 投資有価証券        | 78,479                | 70,220                |
| その他           | 2,535                 | 3,404                 |
| 資産合計          | 237,520               | 213,027               |

| 科目               | 第44期<br>(2007.3.31現在) | 第43期<br>(2006.3.31現在) |
|------------------|-----------------------|-----------------------|
| <b>(負債の部)</b>    |                       |                       |
| 流動負債             | 45,076                | 41,006                |
| 支払手形および買掛金       | 21,220                | 17,417                |
| 短期借入金            | 6,865                 | 10,435                |
| その他              | 16,990                | 13,152                |
| 固定負債             | 21,706                | 20,746                |
| 長期借入金            | —                     | 3,090                 |
| 繰延税金負債           | 19,496                | 15,447                |
| その他              | 2,209                 | 2,209                 |
| 負債合計             | 66,782                | 61,753                |
| 少数株主持分           | —                     | 740                   |
| <b>(資本の部)</b>    |                       |                       |
| 資本金              | —                     | 19,556                |
| 資本剰余金            | —                     | 28,371                |
| 利益剰余金            | —                     | 79,350                |
| その他有価証券評価差額金     | —                     | 24,611                |
| 為替換算調整勘定         | —                     | 539                   |
| 自己株式             | —                     | △1,895                |
| 資本合計             | —                     | 150,533               |
| 負債、少数株主持分および資本合計 | —                     | 213,027               |
| <b>(純資産の部)</b>   |                       |                       |
| 株主資本             | 138,084               | —                     |
| 資本金              | 19,556                | —                     |
| 資本剰余金            | 28,371                | —                     |
| 利益剰余金            | 93,141                | —                     |
| 自己株式             | △2,984                | —                     |
| 評価・換算差額等         | 31,761                | —                     |
| その他有価証券評価差額金     | 30,594                | —                     |
| 繰延ヘッジ損益          | 42                    | —                     |
| 為替換算調整勘定         | 1,124                 | —                     |
| 少数株主持分           | 891                   | —                     |
| 純資産合計            | 170,738               | —                     |
| 負債純資産合計          | 237,520               | —                     |

■ 連結損益計算書の要旨 (単位:百万円)

| 科目          | 第44期<br>(2006.4.1~2007.3.31) | 第43期<br>(2005.4.1~2006.3.31) |
|-------------|------------------------------|------------------------------|
| 売上高         | 151,495                      | 129,284                      |
| 売上原価        | 103,848                      | 85,025                       |
| 売上総利益       | 47,647                       | 44,258                       |
| 販売費および一般管理費 | 27,919                       | 25,757                       |
| 営業利益        | 19,727                       | 18,501                       |
| 営業外収益       | 6,510                        | 5,518                        |
| 営業外費用       | 1,092                        | 812                          |
| 経常利益        | 25,145                       | 23,207                       |
| 特別利益        | 246                          | 101                          |
| 特別損失        | 218                          | 138                          |
| 税金等調整前当期純利益 | 25,174                       | 23,170                       |
| 法人税等        | 8,430                        | 8,066                        |
| 少数株主利益      | 190                          | 209                          |
| 当期純利益       | 16,553                       | 14,895                       |

■ 所在地別売上高構成比





## Question

品質の向上やサポート体制の充実に向けてどのような活動をしていますか？

## Answer

**QMSとEMSを一体で考えるとともに、お客さま満足度の数値管理範囲を拡大しました。**

## 活動の指針と目標

## お客さま視点の品質向上を

- QualityとEnvironmentの垣根を取り、QMS(品質マネジメントシステム)とEMS(環境マネジメントシステム)の全体最適を目指します。
- お客さまの視点で製品を見つめ、品質向上に努めます。

## 活動の概要と具体事例

## 品質改善は品質の棚卸しから

- 顧客満足の視点には従来の品質の視点とともに、環境の視点のウェイトが高まってきています。ランプカンパニーでは業務標準センターがこれらの視点をバランスよく監視し、素早いアクションへとつなげています。QとEの互いの情報交換のQE会議を定期開催し、コミュニケーションを図るとともに、有害化学物質の管理や監査の標準類をQMS内に整えることを進めました。



標準化委員会の風景

- QMSの充実を図るための標準化委員会活動も370回を超え、時代の要請に応じた継続的な標準類の制定、改訂の審議を粘り強く進めています。

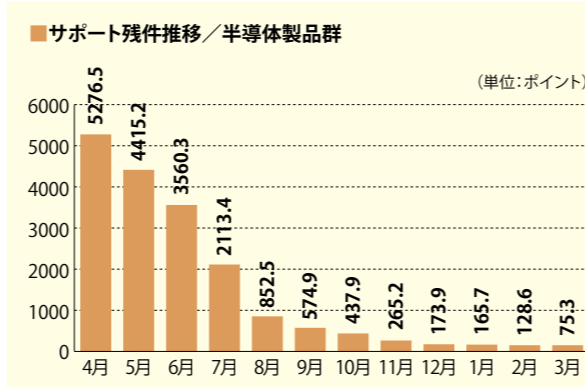
- 「品質改善は品質の棚卸しから」をキーワードに、年2回各部署の品質目標の途中実績推移を全ビジネスユニットの代表が集う検討会にて発表しています。



品質目標実績検討会の風景

- 製造マンの技能レベルアップを狙って技能教育訓練の社内有志者によるチームを結成し、教育テキストの編纂と講義内容の実習を進めており、2007年度より初級訓練を本格稼働します。

- お客さまのご要望・ご意見・不具合の情報は、DBにて一括保存・管理し、製品開発・サポートに活用しています。2005年度に一部の装置製品群で導入した残件ポイントの指標を、2006年度は安定稼働を強く求められる半導体向け製品群に拡大・導入しました。



## これからの取り組み

## 一歩一歩着実にさらなる改善を目指して

〈ランプカンパニー〉

- これからも一歩一歩着実に顧客感動品質を目指して邁進していきます。

〈システムカンパニー〉

- 主要製品の残件ポイントはかなり改善しましたが、さらなる改善に取り組みます。

## Message

## 情報の共有と共感で品質改善を推進

問題はインターフェースで発生します。このインターフェースを埋めるのが情報の共有と共感です。共有と共感を進め、品質改善のパフォーマンスアップを狙います。

ランプカンパニー品質 マネジメント推進室  
成田 光男



## お客さまの視点で品質改善を推進

従来以上に製品の安定稼働が求められています。品質や製品サポート能力向上の体制を構築すべく活動を推進いたします。

システムカンパニー CS部  
菅野 孝幸



## お客さまから信頼を得るためにウシオグループの品質への取り組み

ウシオグループは、世界各地で、お客さまのご要求や満足度向上、品質改善・品質保証に向けた取り組みを実践しています。下にグループ会社の取り組みの一部を抜粋し紹介します。

品質の取り組みからも皆さまに選ばれる企業を目指しています。

## ウシオライティング株式会社

兵庫県福崎町

ウシオライティングでは品質をお客さまの特に重要な要求事項と捉え、品質キーワードを「基準・バラツキ・訓練」として品質の確保・向上のための積極的な取り組みを進めています。バラツキの少ない一定した品質を確保するために、生産ラインでは、繰り返し作業を徹底し、ムダの排除を進めています。

そして、お客さまが望む品質の製品やサービスをジャスト・イン・タイムでお届けすることによって、顧客満足度の向上を目指し、日々取り組んでいます。

野口 邦弘

## 群馬ウシオ電機株式会社

群馬県館林市

群馬ウシオ電機では、顧客満足の向上を目指した品質保証体系を基本とし『見える化』を推進しています。1ヶ流しの物作りです。異常がすぐわかり、不良品を作らない仕組みを目指し活動しています。

また『TSS(止めてすぐ 処置)活動』も実践しています。これらを行うことにより不良品や不用品などの無駄を極力なくし、環境負荷やコストの低減をすように活動しています。

佐々木 正裕

## USHIO HONG KONG LTD.

中国:ホンコン

ウシオホンコンは番禺にある委託加工工場と連携し、2006年12月末、顧客満足度改善をテーマとした「CS会議」を発足させました。

これは、現在までの社外クレームでお客さまからの要求のあった事項に対する改善、また、今後UHKとして改善していく必要がある事項について、対応の仕方・進め方を確実にフォローし、顧客満足度を計画的に着実に向上させる取り組みです。

山下 裕史

## USHIO PHILIPPINES, INC.(UPI)

フィリピン:カビテ

ウシオフィリピンでは新規ランプ製造における品質チェックについて、まずグループ会社などから送られてきた仕様書に基づいて、技術部がサンプルランプを製作します。その後、部材検査から最終検査、出荷検査までの各プロセスで結果を評価。万が一検査の結果がランプの要件に準じていない場合は、必要な調整を実施します。

さらに技術部は、その結果を全ての関係者に知らせるとともに、評価のためにサンプルランプを依頼元に送り確認を行います。

それら過程を経て、ランプを量産するために必要な全ての必要事項(ランプ製造仕様書、工程管理のための品質計画、ジグ、道具、およびドキュメントなど)を準備し量産へ移行していきます。

Joy Ayna Daquioag

## BLV LICHT- UND VAKUUMTECHNIK GmbH (BLV)

ドイツ:ミュンヘン

BLVの最重要ともいえる品質保証基本方針のひとつは「顧客満足」です。これは顧客要求の把握と適応のため、可能な限り最大の顧客満足のため、に制定されているものです。

入荷時検査・工程中検査・出荷時検査の全ての工程において、顧客要求が検査項目に反映されるようにしています。

Thorsten Baum

## CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA, INC.(CDSC)

カナダ:オンタリオ

CDSCカナダでは、1987年にISO9001を認証し、現在ではRoHS指令やWEEE指令など様々な法規制に対応できる体制を築いています。

また、多くの顧客要求に答えられるよう、商品のクオリティ向上や新製品開発などに力を入れています。

Peter Pekurar

## USHIO AMERICA, INC.(UAI)

アメリカ:カリフォルニア・オレゴン

顧客満足につながる全てのプロセス、すなわち製品開発・製造そして納入に至るまでの過程において、継続的に改善を行えるような体制を整えています。

顧客満足につながる全てのプロセス、すなわち製品開発・製造そして納入に至るまでの全ての過程において継続的に改善を行えるような体制を整えています。

購入材料の検査に始まり、ラボの器具や各製造工程上の装置の較正から完成品の光学測定および認定作業まで一貫して行います。独自のランプの製造番号ナンバリングシステムにより、ランプの100%トレーサビリティシステムを確立。製品の一部分は、寿命試験場にてエイジング試験に供されます。寿命試験の過程で、全光束の測定や特定の測定を行います。早期の不具合は製造上の問題に起因する可能性があるため、特に注意を払っています。

さらに、測定値の監視・製造品質の水準を決めるために統計データを利用し、異常値があった場合は直ちに経営トップに連絡されます。

アーバイン工場:Dr. Holger Claus

品質チェックを行うスタッフの育成にも力を入れています。製造スタッフへの品質に関する知識向上を目的とした講習会が品質管理部の責任者によって定期的に開催します。工程ごとに、品質向上にどのように貢献することが可能かというトピックについて、製造スタッフが考える機会が提供される場としても非常に有効な講習会となっています。

品質管理部は、新製品の開発の全ての段階でチームの一員として活動しています。

オレゴン工場:Dana Reeser



Question

ウシオが誇れる社員との関わりとは？

Answer

創業以来、社員一人ひとりがやりがいを持って働ける企業を目指しています。

活動の指針と目標

会社の繁栄と社員一人ひとりの人生の充実を一致させるために

会社の持続的な成長・発展のためには、社員一人ひとりが持てる能力を十分に発揮することが不可欠です。

当社では、個々の能力開発とともに、安心して働くことができる環境・制度の充実を進めています。

活動の概要と具体事例

社員の自立を目指す人材育成

社員の向上心をバックアップするために、ウシオビジネススクール(UBS)では、全社横断的な教育研修を行っています。

組織におけるステージごとの階層別教育や国際人養成のための国際化研修、自己啓発通信教育の側面支援など多彩なプログラムを揃え、社員一人ひとりの多様な価値観、高度な専門知識、グローバル化、情報化に対応しています。

一方、各職場においては、OffJTやOJTを推進し、専門知識のスキルアップに留まらず、職場風土の変革による社員のモチベーションアップをサポートしています。

これらの複合的な教育制度により、組織を通じて自己実現できる自立した人材の育成を目指しています。



研修風景

階層別研修

- ・新入社員研修・中途入社者研修
- ・昇格候補者研修・新任役職者研修
- ・幹部社員研修・評価者研修・GM研修
- ・M研修・シスタープラザ研修

職能別研修

- ・営業職研修・技術者研修
- ・製造技能研修

ウシオの教育研修制度

国際化研修

- ・海外留学(大学院)・国内留学
- ・海外トレーニー研修
- ・海外赴任者語学研修

自己啓発援助

- ・通信教育・専門誌の斡旋
- ・社内語学検定(TOEIC)

安心して仕事ができる環境・制度の整備

仕事と家庭の両立や次世代育成、高齢者雇用などを積極的に支援し、安心して仕事ができる環境・制度の充実を進めています。

特に次世代育成支援に関しては、2005年度～2006年度の2年間の取り組みが認められ、東京労働局長より、次世代育成支援対策推進法に基づく認定を受けることができました。



くるみん

次世代育成支援の取り組み(2005～2006)

| 目標         | 取り組み結果                                 |
|------------|--|
| 育児休業の取得率向上 | 男女とも取得率向上(女性はほぼ100%取得)                 |
| 育児休業制度の改定  | 休業期間の延長と収入補償期間の導入                      |
| 社内啓発活動     | 社内通達、社内報を中心に社員の意識向上                    |
| その他        | 子の養育休暇制度の導入<br>育児・介護期間中の「残業ゼロ」制度の導入 など |

これからの取り組み

人事制度委員会を中心に、より発展的な制度構築を進めます。

2006年度にウシオ電機各事業所の代表で組織する「人事制度委員会」を発足しました。

委員会を中心とした活動により、各職場とそこに働く社員のニーズを反映した、より発展的な制度を構築し、企業理念の一層の浸透を図ります。

また、2005年度から取り組んでいる次世代育成支援などの活動を継続発展させ、今後とも企業活動を通じた社会への貢献を推進してまいります。

Message

より働きやすい会社を目指して

2年間の取り組みの成果として、次世代育成支援対策推進法に基づく認定を受けることができました。ワーク・ライフ・バランスへの取り組みは始まったばかりですが、社員との対話を大切にしながら、多様な働き方へのサポートをしていきたいと思ひます。



人事部  
辺見 香

Question

環境コミュニケーションの位置付けを、どのように考えていますか？

Answer

環境コミュニケーションの重要性を念頭に情報開示し、双方の交流を深めています。

活動の指針と目標

理解を得て、より多くの共感者と、いち早く効果的な環境活動に

一企業の事だけでは済まない環境への取り組みは、世界中の人々が考え、行動し、結果を出していくことが重要です。コミュニケーションから広がる「環境活動」を目指します。

活動の概要と具体事例

コミュニケーション

グループ間

国内外グループ会社との環境交流により、ウシオのEMSパイラルアップを目指しています。同じベクトルを持ちつつ、様々な視点から情報交換をしています。今後も、環境教育や相互監査など可能な範囲で拡充していきます。



北米訪問

地域社会(USHIO AMERICA, INC. (UAI OREGON Div))

商工会議所が主催する「ニューバークリーダーシップ・プログラム」において、地域企業が集まり環境活動をテーマにした説明会を開催。環境保全活動について、地域社会への啓発を行いました。

発行物

ステークホルダーの方々への発行物

2006年度は、サステナビリティレポート内容の拡充に加え、英語版(日本語ダイジェスト版)も作成。グループ会社を含む全社員への配布を行いました。

また、事業報告書やインベスターズガイドにも、継続的に環境への取り組みページを設け、お伝えしています。



ステークホルダーの方々への発行物

UGNニュース

ウシオグリーンネットワーク(UGN)\*を活かし、ウシオ電機はもちろん、国内外のグループ会社から寄せられたグローバルな情報・事業所の環境活動などを、月1回ニュースレターとして社内へ発信しています。

\*グループ会社を含む20社48名(2007年度)で構成された、グループでの環境の取り組み、情報共有を目的とした組織

GREEN TIMES

(ウシオ電機社内報「USHIO POWER」)

月発行の社内報には、環境ページを設け、毎月環境活動の報告を掲載しています。また、年2回の環境特集では、環境施設への取材などを行い、社員だけでなくその家族も対象とした啓発に取り組んでいます。

展示物

パネル展示

「セミコンジャパン」「JPCA Show」での環境パネル展示のほか、2006年夏季に新宿御苑で開催された「最新エコスタイル展」では『デジタルシネマ普及プログラム』をパネル出展しました。



エコスタイル展ポスター

これからの取り組み

環境を軸としたコミュニケーションのさらなる充実へ

グループ間のコミュニケーション強化に向けた環境ポータルサイトの立ち上げや、ステークホルダーダイアログの開催、地域社会とのコラボレートなど、環境を軸としたコミュニケーションの場を一つずつできることから築いていきます。

Message

「環境」から始まるコミュニケーション

世界の気象変化や法規制などで「環境問題」が身近になり、日常的にも「環境」という言葉を聞くようになりました。企業活動だけでなく、個々の活動支援にも力を入れていきたいと思ひます。



環境マネジメント統括室  
田代 文子

Question

ウシオは社会貢献活動をどう捉えていますか？

Answer

社会に貢献できる企業を作り、その企業で働くことを喜べる会社を目指します。

活動の指針と目標

社会の発展に一人ひとりも

私たちは地球市民として、社会を構成する一員として、社会とともに発展・共存していくことを目指し、社会貢献に取り組んでいます。

活動の概要と具体事例

地域社会の声に応える活動を展開

企業へ求める地域社会の声に応えるべく、各所色々な活動に参加しています。また、個人の自主的な活動に対してもウシオは支援していきます。

ウシオ電機の取り組み

社会貢献休暇制度の導入

ウシオ電機は社員個々人の積極的な社会活動の参加促進のため、社会貢献活動を目的とする休暇制度を2006年11月に新たに導入しました。

今後は全グループを対象とした、社会貢献活動を行っている社員の登録制度「ECOクラブ」を開設する予定です。それら活動内容は社内報やUGNニュースで紹介するなどし、企業が一人ひとりを支援する体制を充実させていきます。

財団法人ウシオ育英文化財団の活動

大学に在学する学生に対し奨学金を供与するとともに、学術研究・文化活動に資金助成を行うことにより、人材の育成と学術・文化の発展に寄与することを目的に(財)ウシオ育英文化財団を設立しました。

これにはウシオ電機(株)の創業者、現会長の牛尾治朗が同社の創立30周年を迎えるにあたり私財を抛出。また、ウシオ電機株式会社も本法人設立に際し、記念行事の一環として資金を抛出しました。



財団法人ウシオ育英文化財団

【主な事業内容】

- (1) 大学に在学する学生(留学生を含む)に対する奨学金の支給
- (2) 光に関する研究に対する助成
- (3) 光を応用した芸術文化活動に対する助成
- (4) その他目的を達成するために必要な事業

2006年度は、大学院生(留学生含む)29名、大学生10名、高等専門学校生8名に奨学金を支給し、4件の研究助成を実施しました。

各事業所・グループ会社の取り組み

共同基金で静岡県から表彰

(御殿場事業所)

1998年より「歳末たすけあい基金」や「赤い羽根共同募金」などの募金活動へ参加しており、その都度、事業所内に募金箱を設け活動しています。この度長年の功労がたたえられ、「平成18年度 静岡県健康福祉大会」において主催の(福)静岡県社会福祉協議会さまより「静岡県共同募金会会長賞」をいただきました。

「ブラックイルミネーション2006」への参加

(播磨事業所)

2006年6月18日、20時以降、播磨事業所とJR姫路駅前にある看板照明の一斉消灯を実施。短い時間ながら約120kWhの省エネに寄与しました。今後も継続的に参加する予定です。

近隣企業と共同の地域美化活動

(ウシオライティング(株))

毎年5月30日(ゴ・ミ・ゼロの日)、福崎町と工業団地が協力して行う清掃・植栽活動に、新入社員や研修生、中途入社社員などが参加。道路の草刈り・ゴミ拾いの他、隣接する工場玄関前へ植栽などを行いました。



地域美化活動

参加者が自分の植えた花が咲くのを毎年楽しみにしており、心む一時です。一人ひとりが環境に目を向けていただく一助になれば…と取り組んでいます。

ウシオライティング: 上垣 好夫

リサイクル活動とともに・・・

(USHIO AMERICA, INC. <UAI OREGON>)

工場外で購入し持ち込まれた空き缶を収集。アメリカ国内の空き缶デポジット制度により得た返金を、工場内で行っている他のチャリティ活動で集めたお金と合わせ、アメリカ癌センターに寄付しています。

リサイクル活動とともに、社会にも貢献しています。

電子廃棄物リサイクル大会に参加

(CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS U.S.A., INC. <CDSU> & USHIO AMERICA, INC. <UAI>)

カリフォルニア州環境保護庁有害物質管理局による電子廃棄物リサイクル大会に2社共同で参加。トラック約3台分の使用済み電子機器(パソコンなど)を寄付しました。これらは業者により修繕・修理され、中古PCとして廉価で再販されます。



電子廃棄物リサイクル大会

日本に比べアメリカは、リサイクルやゴミ分別などまだまだこれからです。このようなイベントをもっと活発に行い、国民の認識向上に役立てれば、と思います。

CDSU: 山川 明美

社員の取り組み

社員有志から始まる募金活動

(CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA, INC. <CDSC>)

ユナイテッド・ウェイ\*サポートキャンペーンを社員有志が開催し、全社員が参加。給与天引きなども含め、約30,000US\$の基金が集まりました。こういったコミュニティの機会を大切に、今後も社会に貢献する活動を行います。

\*ユナイテッド・ウェイ: 地方共同体でボランティアやNPO活動の資金源として大規模に寄付を集め配分する非営利団体。集められた基金は、子供や若者の育成・障害者へのサポートなどに使われる。

労働組合での社会活動

ウシオ電機労働組合でもこれまで、自然災害などによる被害地域への義援金など支援を積極的に行ってきました。また、周辺地域の「クリーンキャンペーン」などへ自主的な社会貢献活動を推進しています。



クリーンキャンペーン

「クリーンキャンペーン」は、ウシオ電機のメイン工場のある姫路市の総合庁舎周辺の清掃作業を行い町の美化を推進するものです。春と秋年2回、ウシオ電機労働組合では参加者を募り毎回家族とともに参加しています。

外部団体への参画

他にも、環境活動・社会活動や雇用に関わる団体への参画なども行っています。

| 主に環境活動に関わる団体                         |
|--------------------------------------|
| 地球温暖化対策推進本部(チーム・マイナス6%)              |
| (財)日本花の会                             |
| (財)日本緑化センター                          |
| (財)花と緑の農園財団                          |
| (財)省エネルギーセンター                        |
| (財)ひょうご環境創造協会                        |
| (社)日本電球工業会 環境対策委員会                   |
| (社)照明学会 光源システムにおける環境とエネルギー問題 研究調査委員会 |
| (社)日本半導体製造装置協会 環境部会                  |
| 日中省エネルギー・環境ビジネス協議会                   |
| 地球環境会議(フジサンケイグループ)                   |
| グリーン調達調査共通化協議会                       |
| 御殿場市水質保全協議会                          |
| 主に社会活動や雇用等に関わる団体                     |
| (財)地球産業文化研究所                         |
| (財)海外邦人医療基金(アジア)                     |
| (財)海外子女教育振興財団                        |
| (財)留学生支援企業協力推進協会                     |
| (財)社会経済生産性本部                         |
| (社)関東年金福祉協会                          |
| (社)東京都高齢者雇用開発協会                      |
| (社)東京都障害者雇用促進協会                      |
| セントジョンアンビュアランスジャパン協会                 |
| 御殿場市社会福祉協議会                          |
| 関東身体障害者陸上競技協会                        |

これからの取り組み

個人の社会貢献活動をサポート

今後も企業の貢献活動の分野を広げつつ、個人の社会貢献活動・環境保全活動へのバックアップやネットワーク作りを構築・拡充していきます。

# 環境推進組織と行動計画および実績

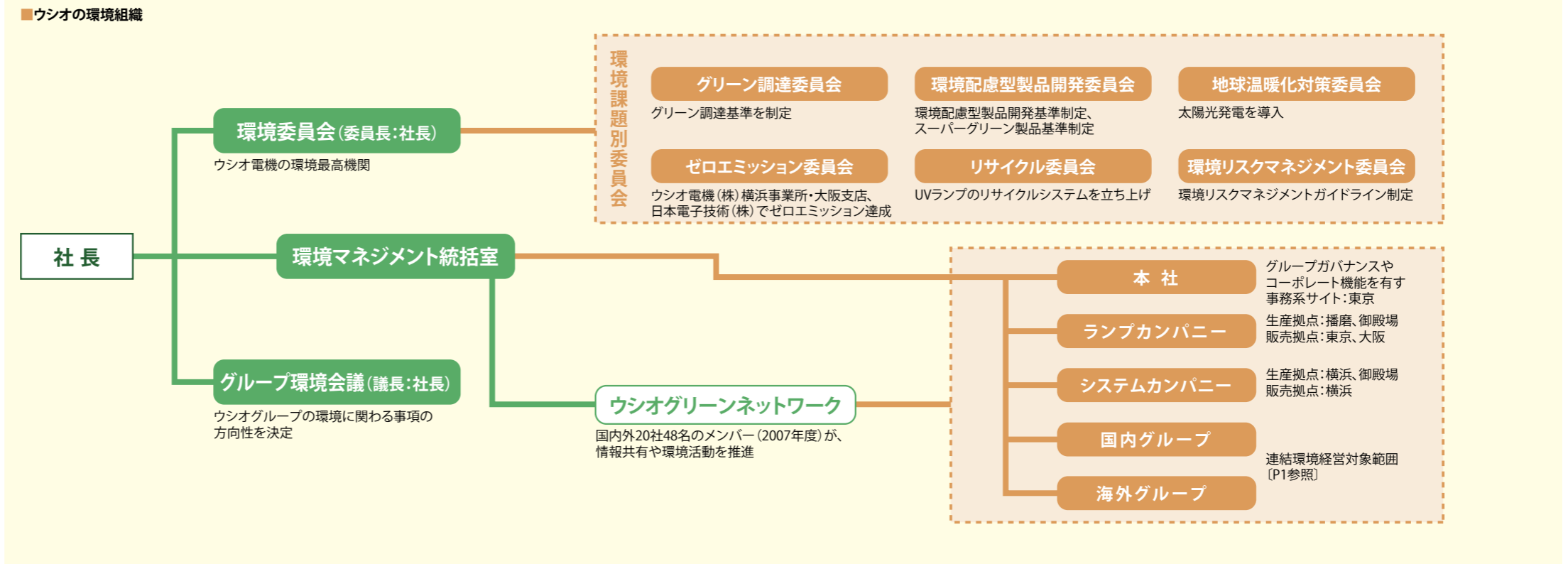
## ウシオ環境推進組織

「環境委員会」と「グループ環境会議」は本社社長を委員長、議長としたトップ方針や最上位計画を決定する最上部組織です。

環境委員会の直下組織に「環境課題別委員会」があり、「グリーン調達委員会」「環境配慮型製品開発委員会」「地球温暖化対策委員会」「ゼロエミッション委員会」「リサイクル委員会」「環境リスクマネジメント委員会」の6つの専門委員会を構成しています。ここでグループを含めた全サイトへのガイドや具体化を推し進めます。

さらに本社「環境マネジメント統括室」や「ウシオグリーンネットワーク」(P17参照)を通じ、各サイトの環境関連部門で目的や目標を達成するための活動に展開されます。各サイトのEMSを活性化させ、効果的なPDCAサイクルをまわしています。

グループ連結環境経営は、このように一本化したトップダウン体制のもと実践しています。



## 2006年度ウシオ環境テーマ・目標と活動実績

| 環境テーマ                        | 推進部門                                 | 2006年度目標   | 評価 | 2006年度主な活動実績   | 関連ページ   |
|------------------------------|--------------------------------------|--|----|--|---------|
| 1. 製品を通じた市場貢献                | (1) 環境配慮型製品の開発                       | 環境配慮型製品開発委員会<br>主要開発製品全てを環境配慮型製品にする(ウシオ電機)                           | ◎  | ランプカンパニー システムカンパニー、ともに100%達成。<br>デザインレビュー (DR) において、環境配慮型製品アセスメントが定着し、主要開発製品全てが環境配慮型製品となった。  | P27     |
|                              | (2) リサイクルシステムの構築                     | リサイクル委員会<br>全UVランプの資源再利用率99%以上を達成する                                  | ○  | 産廃広域認定の申請実施(2007年4月、認定取得)。UVランプのリサイクルシステム導入準備を完了した。  | P30     |
| 2. 事業所環境保全活動の推進              | (1) 省エネルギー対策の推進(地球温暖化防止)             | 地球温暖化対策委員会<br>CO <sub>2</sub> 原単位排出量を1990年度比10%以上削減する(ウシオ電機)         | △  | 横浜事業所や本社・営業部門などでは年間の事業所目標を達成した。播磨事業所においては生産変動が原単位に影響し、年度目標は未達となる。全社の売上高あたりCO <sub>2</sub> 排出量は、目標の146.3kg/百万円に対して、196.3kg/百万円となり未達。  | P28     |
|                              | (2) ゼロエミッションの推進                      | ゼロエミッション委員会<br>ゼロエミッション達成(グループ全体)                                    | △  | 各事業所におけるリサイクル計画の推進を行った結果、ウシオ電機(株)横浜事業所・大阪支店、日本電子技術(株)でゼロエミッションを達成したものの国内グループ全体では未達。ウシオ電機全体の有効利用率は98.1%。(第4四半期)                       | P29     |
| 3. グリーンパートナーシップの推進           | (1) 部材グリーン調達の推進                      | グリーン調達委員会<br>グリーン調達率99%以上達成(グループ全体)                                  | △  | ウシオ電機全社統合版グリーン調達基準制定。アジア地区グループ会社に対して、ウシオグリーン調達ガイドラインを準用導入。北米地区グループ会社に対して、ウシオグリーン調達ガイドラインおよび化学物質管理体制を指導。ウシオ電機と協力してグリーン調達を推進する体制を構築した。 | P26     |
| 4. 環境経営システムのレベルアップ           | (1) 環境マネジメントシステムの構築(ISO14001認定取得を基本) | 環境マネジメント統括室<br>環境マネジメントシステムを拡大(グループ全体)                               | ○  | 国内グループ会社は対象全サイトにおいて計画通りISO14001認証取得、または取得計画の策定を完了。この他、海外では販売部門1社があらたにISO14001を認証取得し、未取得サイトでもEMS構築が具体化した。                             | P34~P39 |
|                              | (2) 環境会計システムの構築                      | 環境マネジメント統括室<br>マテリアルフローコスト会計の実施                                      | ◎  | セミナーを開催し、播磨事業所でマテリアルフローコスト会計を実施。   | P9      |
|                              | (3) 環境リスクマネジメントシステムの体制強化             | 環境リスクマネジメント委員会<br>環境リスクマネジメントガイドラインの導入(グループ全体)                       | △  | 環境リスクマネジメントガイドラインを制定し、環境リスクマネジメント講習会を人事部主管で実施。ハザードマップ、リスクマップを作成、各サイトがガイドラインに沿って環境マニュアルを改訂。但し、グループ展開に若干の遅れあり。                         | P31     |
| 5. 環境社会貢献の推進(環境コミュニケーションの強化) | (1) 環境報告書/サステナビリティ報告書の発行             | 環境マネジメント統括室<br>6月に2005年版サステナビリティレポート2006(グループ全体)発行。環境総合窓口(ガバナンス用)の開設 | ◎  | ウシオ電機全社の活動のみならず、内外の主要グループ会社の活動、サイトデータ、さらにはCSR活動(社会側面の報告)も一部掲載し6月25日に発行した。英文ダイジェスト版は9月発行。環境総合窓口を開設し、拡充した。                             | P17     |

評価: ◎目標以上に達成、○目標通り達成、△取り組んではいるがいま一步の成果、×60%以下の達成

# ウシオ環境ビジョン

## [第2期ウシオ環境行動計画 目的・目標(2007年度~2009年度)]

ウシオグループは「事業活動のあらゆる場面における環境保全への取り組みを通じて、持続可能な社会の実現に貢献」という基本理念のもと、2003年度から具体的な活動目標と計画(第1期行動計画)を策定。製品・調達などにおける環境配慮や負荷低減、環境マネジメントにも積極的に取り組んできました。

イノベーションを推進するビジョンをもって、さらなる理念の実現に今後もチャレンジし続けます。

### 持続可能な社会の実現を目指すための2010年環境ビジョン

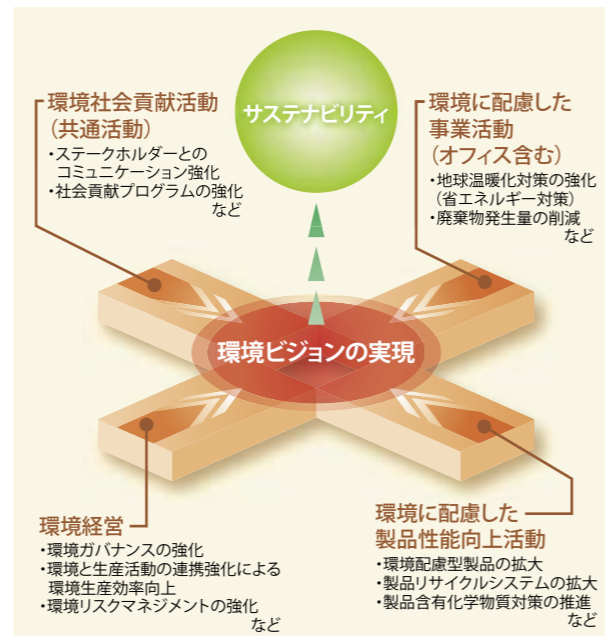
ウシオグループは2010年を目標に、SCM(サプライチェーンマネジメント)視点で、省エネルギー対応、廃棄物対応、製品のさらなるグリーン化対応、環境リスク対応などをメインとした4つの柱を中心に活動を展開し、事業活動との一体化を目指します。そのために、以下のとおり攻めと守りを明確化し、施策の展開を推進します。

1. 環境活動と経営の一体化による環境生産性\*の向上(攻め)
2. 環境に配慮した製品性能向上活動の拡充(攻め)
3. 製品・生産活動の環境リスクマネジメントの強化(守り)

※環境生産性  
生産活動(TPM)にマテリアルフローコスト会計を連携強化し、環境視点から生産性の向上を図り、環境調和型プロセスにより市場競争力のある製品・サービスを生み出していくこと。具体的には生産工程に投入する資源を効率的に活用し、廃棄物の削減や再利用まで視野に入れた経済的付加価値を生み出すマネジメントを行うこと。

### 第2期ウシオ環境行動計画の4大テーマ

4つの環境テーマを設定し、環境ビジョンの具現化を図ります。



### 第1期ウシオ環境行動計画 目的・目標(2003年度~2006年度)からの進展

現在、ウシオ環境行動計画を策定し約4年が経過しました。2003年に第1期の計画を策定した当初「環境対応は品質の一部」と促え、環境で選ばれる企業に向けた活動をメインに設定しました。第2期では、第1期の計画に対する実績を踏まえ、現状に相応しいか、進むべき方向が正しいかなど再認識して、テーマはより明確な目的に分類、持続可能性を追及するための設定としました。

- 環境活動と経営の一体化やサステナブル経営面、リスク対応面 ..... 1項: 環境経営
- メーカーが進めるべき本来活動(製品販売後押し)面 ..... 2項: 環境に配慮した製品性能向上活動
- 高まる環境規制等の対応や企業方針などから ..... 3項: 環境に配慮した事業活動(オフィス含む)
- 高まる企業の社会的責任から ..... 4項: 環境社会貢献活動(共通活動)

また、以下4つの指標(視点)をもって下位項目の検討を行いました。

■...地球温暖化対策 ■...攻めと守りの強化(明確化) ■...企業理念、環境方針、サステナブル経営 ■...販売へのイニシアティブ

| 第1期(2003~2006年度)   | 第2期(2007~2009年度)  |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 製品を通じた市場貢献                             <ul style="list-style-type: none"> <li>環境配慮型製品の市場への投入</li> <li>鉛フリー化の促進</li> <li>UVランプリサイクルシステムの構築</li> </ul> </li> <li>2. 事業所環境保全活動の推進                             <ul style="list-style-type: none"> <li>環境負荷情報の集計</li> <li>省エネルギー対策の推進</li> <li>ゼロエミッションの推進</li> </ul> </li> <li>3. グリーンパートナーシップの推進                             <ul style="list-style-type: none"> <li>部材グリーン調達の推進</li> <li>オフィス用品グリーン調達の推進</li> </ul> </li> <li>4. 環境経営システムのレベルアップ                             <ul style="list-style-type: none"> <li>環境マネジメントシステムの構築</li> <li>環境会計システムの構築</li> <li>環境リスクマネジメントシステムの体制強化(2005年度~)</li> </ul> </li> <li>5. 環境社会貢献の推進(環境コミュニケーションの強化)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>環境報告書/サステナビリティレポートの発行</li> </ul> </li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境経営                             <ul style="list-style-type: none"> <li>環境ガバナンスの強化</li> <li>環境と生産活動の連携強化による環境生産効率向上</li> <li>環境リスクマネジメントの強化</li> </ul> </li> <li>2. 環境に配慮した製品性能向上活動                             <ul style="list-style-type: none"> <li>環境配慮型製品の拡大</li> <li>製品リサイクルシステムの拡大</li> <li>製品含有化学物質対策の推進</li> </ul> </li> <li>3. 環境に配慮した事業活動(オフィス含む)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>地球温暖化対策の強化(省エネルギー対策)</li> <li>廃棄物発生量の削減</li> </ul> </li> <li>4. 環境社会貢献活動(共通活動)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>ステークホルダーの方々とのコミュニケーション強化</li> <li>社会貢献プログラムの強化(拡大)</li> </ul> </li> </ol> |

### 第2期ウシオ環境行動計画 目的・目標(2007年度~2009年度)

| 環境テーマ                  | 推進部門                     | 目的・目標               | 2007年度   | 2008年度  | 2009年度   |
|------------------------|--------------------------|---------------------|--|---|--|
| 1. 環境経営                | 環境ガバナンスの強化               | グループ環境マネジメントシステムの確立 | グループ環境教育実施<br>グループ相互監査実施   | e-ラーニング導入<br>ウシオ環境活動ガイドライン充実(英文版等)  | グループEMSの確立   |
|                        | 環境と生産活動の連携強化による環境生産効率向上  | 環境マネジメント統括室         | マテリアルフローコスト会計の導入(播磨・御殿場)<br>環境パフォーマンス、環境会計システムの導入  | マテリアルフローコスト会計の導入(横浜)  | マテリアルフローコスト会計の導入(グループ展開)   |
|                        | 環境リスクマネジメントの強化           | 環境リスクマネジメント委員会      | 環境リスクマネジメントガイドラインの確立<br>全サイトの特定化学物質使用・排出量の把握   | 環境リスク巡回点検(海外)<br>法規制等要求事項DBの構築<br>製品環境法規制教育の実施率   | -  |
| 2. 環境に配慮した製品性能向上活動     | 環境配慮型製品の拡大               | 環境配慮型製品開発委員会        | 環境配慮型アセスメント基準の海外導入<br>開発ロードマップのレベルアップ<br>LCAのレベルアップ  | スーパーグリーン製品の創出・発表<br>主要製品のLCA実施率50%  | 各BUで1製品のスーパーグリーン製品を創出・発表<br>主要製品のLCA実施率100%  |
|                        | 製品リサイクルシステムの拡大           | リサイクル委員会            | 製品リサイクルシステムの確立   | 製品リサイクルシステムの確立  | -  |
|                        | 製品含有化学物質対策の推進            | グリーン調達委員会           | 特定有害物質の削減・代替・全廃により市場のグローバル化に対応   | 特定有害物質の把握と管理強化<br>VOC対応などの強化  | -  |
| 3. 環境に配慮した事業活動(オフィス含む) | 地球温暖化対策の強化(省エネルギー対策)     | 地球温暖化対策委員会          | 売上高CO <sub>2</sub> 原単位(原油換算)エネルギー使用量を1990年度比13%以上削減<br>物流改善によるCO <sub>2</sub> 排出量を2006年度比10%以上削減 | (単体)売上高CO <sub>2</sub> 原単位を1990年度比12%以上削減<br>(グループ全体)売上高CO <sub>2</sub> 原単位を2005年度基準で2%以上削減<br>物流改善によるCO <sub>2</sub> の低減を2006年度比8%以上削減 | (単体)売上高CO <sub>2</sub> 原単位を1990年度比13%以上削減<br>(グループ全体)売上高CO <sub>2</sub> 原単位を2005年度基準で3%以上削減<br>物流改善によるCO <sub>2</sub> の低減を2006年度比10%以上削減 |
|                        | 廃棄物発生量の削減                | ゼロエミッション委員会         | 廃棄物発生を抑制し、コスト削減・環境負荷低減を積極的に推進  | (国内グループ)ゼロエミ状態の維持<br>(単体)廃棄物処理コストを前年度比5%削減  | (国内グループ)廃棄物処理コストを前年度比5%削減  |
| 4. 環境社会貢献活動【共通活動】      | ステークホルダーの方々とのコミュニケーション強化 | 環境マネジメント統括室         | ステークホルダーの方々からウシオの環境理念・環境取り組みを積極的に情報公開する  | CSR報告を含む「グループサステナビリティレポート」の継続発行<br>CSR報告を含む「グループサステナビリティレポート」英語版の発行<br>環境総合窓口拡充(e-ラーニングの一部導入)   | CSR報告を含む「グループサステナビリティレポート」の継続発行<br>CSR報告を含む「グループサステナビリティレポート」英語版の継続発行  |
|                        | 社会貢献プログラムの強化(拡大)         | 環境マネジメント統括室         | 地域および地球環境への環境貢献  | エコクラブの設立(個人の取り組みのweb登録)<br>制度の検討(ボランティア休暇など) 環境イベントの開催  | 制度導入<br>環境イベントの開催(継続)  |

Question

環境マネジメントシステムをどのように活用していますか？

Answer

グループ環境ガバナンスへの展開に向けて有効に活用しています。

活動の指針と目標

内・外部目標を定め、より具体的なEMS活動へ

ウシオグループを対象とした環境マネジメントシステムの構築展開の中で、内・外部目標を定め、お客さまに選ばれる企業をグループ一体で目指しています。

- ウシオ環境テーマの目標達成
- グループ全体で環境負荷指標や環境会計の集計力強化
- 情報共有化の強化
- コンプライアンスなどグループガバナンスの強化
- グループで統一された情報公開や環境メッセージの発信
- グローバルブランドの防衛と強化
- 優良サプライヤーの認定
- 企業格付けの向上

活動の概要と具体事例

環境マネジメントシステムの構築

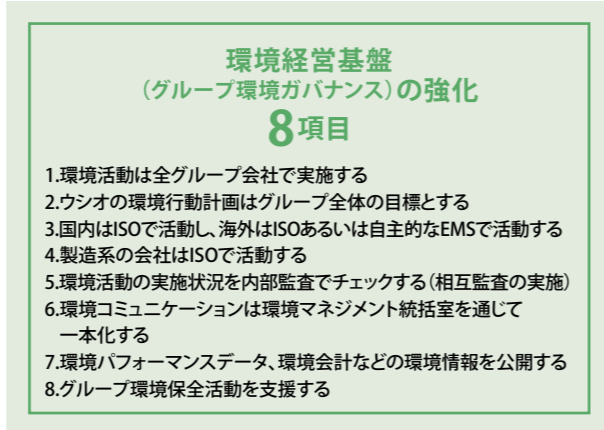
ウシオ電機的主力工場である播磨事業所は、ISO14001が登録した翌年1997年10月に認証を取得。その後、2002年からスタートした全体最適化する業務改革やお客さまのグリーン調達要求の高まりを受け、全社での認証取得を目指しました。2004年12月本社の認証取得により、ウシオ電機全サイトの認証・登録を完了しました。

国内外グループ会社も、順次環境マネジメントシステムを構築しています。2006年度においては、群馬ウシオ電機、USHIO KOREA, INC.がISO14001を認証取得しました。「グループ環境会議」決定事項に基づき、各社認証取得を目指し、プロジェクトを組んでEMS構築を推進しています。

環境マネジメントシステムの構築からグループ環境ガバナンスを強化

ウシオグループ全体で環境取り組みのベクトルを合わせているのが、2005年2月、国内外のグループ会社のトップが一堂に会する「グループ環境会議」で審議制定された「環境経営基盤（グループ環境ガバナンス）の強化8項目」です。このガバナンスのもと、国内グループ会社はISO14001主体での活動、海外グループ会社はISOもしくは同等のEMS活動を実践しています。

各社ごとの独自のシステムを活かしながら、ウシオグリーンネットワーク（P17参照）が国内外を含めたウシオとしてのPDCAを構築し、スパイラルアップを目指しています。



これからの取り組み

USHIO ECO-SYS (環境経営システム)の導入もグループEMSの活性化に

環境活動と経営の一体化をさらに強化するため、「USHIO ECO-SYS (環境経営システム)」[P8参照]の全グループにおけるの運用展開が計画通り進んでいます。これはEMS活性化のツールの一つになります。

第2期ウシオ環境行動計画目的・目標に基づき、環境活動と経営の一体化を目指して取り組んでいきます。

Question

ウシオはどのような環境教育や啓発活動を行っていますか？

Answer

全社員が本来業務の中で主体的に「環境」へ取り組むための教育を実施しています。

活動の指針と目標

常に高い環境意識で本来業務に取り込むための教育を実施

企業の組織人として、社会人として環境への取り組みの重要性を認識し、本来業務において環境意識が常に図れるよう、それぞれのシーンに合わせた教育機会の提供を行います。

活動の概要と具体事例

全社員の役割に応じた環境教育

ウシオでは、各役割に応じた環境活動を、業務で実行できる力量が持てるように、全社員対象の階層別人材教育の中で環境教育を実施しています。

新入社員研修

ウシオで働く社員として、必要な知識を身に付けます。品質・安全とともに環境について強い自覚を持って取り組むことが望まれます。

役職昇格試験受験者研修

中堅管理者として、顧客ニーズや社会状況の変化を読み取る能力が必要となります。ウシオは、役職者登用研修において環境教育が必須となっています。研修会では、現状分析・課題設定・方策遂行について討議形式でトレーニングを行います。また、企業の社会的責任(CSR)の考え方も学びます。

経営幹部対象研修

幹部社員には、経営に大きな影響を及ぼす「環境リスク」の危険性について、その発見方法と予防対策など毎年研修を行っています。「環境リスク」事象を冷静に判断し、機敏な対応を取り、常に先を読み将来のための手段を講じる対応力が求められます。



環境リスクマネジメント講習会

内部環境監査員養成教育

毎年定期的に内部環境監査員養成教育を実施し、全ての部門に内部環境監査員を配置しています。本来業務の中で監査員の視点を持って、環境に関わる業務を遂行する体制が整いました。また、製品のRoHS指令等順法管理についての監査員教育も行っています。

環境課題別教育研修や啓発活動

環境生産性向上、省エネ推進や製品の環境規制など、環境への取り組みをレベルアップするために、講演会や説明会など啓発活動を実施しました。

| 主旨   | 名称                              | 開催事業所      | 開催時期          |
|------|---------------------------------|------------|---------------|
| セミナー | マテリアルフローコスト会計(MFCA)社内セミナー(外部講師) | 播磨事業所      | 2006年9月29日    |
| 説明会  | 製品含有化学物質管理の強化                   | 播磨事業所      | 2006年6月9日     |
|      | 中国版RoHS説明会                      | 播磨事業所      | 2006年12月22日   |
| 意識啓発 | 環境月間啓発活動(食堂でビデオ放映、掲示板啓発)        | 播磨事業所      | 2006年6月       |
|      | 環境活動パネル展示                       | ウシオフェスティバル | 2006年8月4日     |
| 訓練   | 緊急事態対応訓練                        | 御殿場事業所     | 2006年11月16日   |
| 講習会  | 水銀取り扱い                          | 播磨事業所      | 2007年3月22・28日 |



環境月間啓発活動

これからの取り組み

グループ全社で連携し新しい環境教育を導入

環境マネジメントに「環境リスク」側面の管理を強化した環境リスクマネジメント体制を構築することが重要です。海外グループを含め、全社で連携し、新しい環境教育を導入してレベルアップを図っていきます。

Message

力量アップの機会を提供

教育研修で心がけていることは、タイムリーな情報を楽しく、また、自らの気付きを職場で実践できるようにすること。その機会提供の場となることを大切にしていきたいと思っています。



人事部 五十嵐 満澄

Question

製品の含有規制化学物質削減の取り組みについて教えてください。

Answer

部材の含有規制化学物質と製造工程での汚染リスクの極小化を図っています。

活動の指針と目標

規制を先取りした管理体制の構築

EUのWEEE指令、RoHS指令に始まり、中国版RoHS指令など、製品含有化学物質に対する規制を機に、ウシオでは社内外の連携を強化し、規制を先取りした管理体制の構築を行い、含有・汚染リスク低減に努めています。

RoHS6物質に関する取り組みは2005年度末までに完了。2006年度はさらなるリスクの削減を目指し、社内外の管理体制の充実とグループ各社との連携の充実を目指して取り組みました。

活動の概要と具体事例

仕入先さま～お客さまとの連携

ウシオ電機は、2005年4月にJGPSSI(グリーン調達調査共通化協議会)に加盟、お客さまや仕入先さまなど、それぞれの状況を把握し、JGPSSIガイドライン・JIG<sup>※1</sup>に準拠し、2006年12月にグリーン調達基準<sup>※2</sup>を全社版ガイドラインとして統一しました。

また、含有リスクを低減するための取り組みとして、従来から行っている蛍光X線分析装置による抜取評価に加え、2006年度ウシオ電機では、JGPSSIガイドラインに基づいた基準におけるハイリスク部材を指定し、化学物質管理体制(仕入先自己評価)を導入しました。



RoHS対応品倉庫

※1 電気・電子機器製品に関する含有化学物質情報開示のガイドライン  
 ※2 ウシオのグリーン調達基準はホームページより入手できます。  
<http://www.usshio.co.jp/jp/eco/plan/green.html>

社内の化学物質管理体制の構築と統制

製品に規制化学物質を含有させない取り組みは、各部署がしっかりと連携することが必要となります。ランプカンパニーでは、社内関係部署の役割を明確にして、品質マネジメントシ

テム(ISO9001)との連携による管理システムを構築しました。また、ランプを生産するグループ会社との連携では、播磨事業所をマザー工場と位置付け、BU(ビジネスユニット)ごとに、それぞれにつながる深い海外グループ会社と同一基準・同一システムによる運営を開始しました。



グループ会社での説明会

さらに工程内の化学物質管理の取り組み生産工場では、生産工程における化学物質管理レベル基準を定め、PRTR法<sup>※3</sup>による管理化学物質の自主管理を実施しています。

※3 特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律

これからの取り組み

サプライチェーン全体で管理システムを充実

これからも化学物質規制の動きを注視しながら、サプライチェーン全体にわたる化学物質管理システムの充実を、ウシオグループとして行っています。

Message

統一・共通化を目指し...

製品含有規制化学物質に関する取り組みは、一つの会社だけではできません。JGPSSIガイドライン、JIGに準拠し、お客さま・仕入先さまと常に協調を図りながら、さらなるシステムアップを行っていきます。

ランプカンパニー環境マネジメント推進室  
園田 良太



Question

ウシオとして、環境配慮型製品の目指すところは何でしょうか？

Answer

ライフサイクルを通して、環境に配慮した性能向上や革新的製品の創出を目指します。

活動の指針と目標

より環境負担の少ない製品の開発および提供

ウシオグループは環境問題をビジネスチャンスと捉え、より環境負担の少ない製品の開発および提供を企業戦略として取り組んでいます。

環境配慮型製品の開発においては、RoHS指令などの環境規制に対応するだけでなく、単なる規制対応とは異なる取り組みで環境配慮型製品アセスメントの基準・ガイドラインを設け、開発や設計業務の仕組みの中で運用しています。さらに、市場情報や技術情報、お客さまのご意見、ご要望を積極的に取り入れながら、既存製品とは一線を画す、革新的環境対応技術を採用した製品開発を目指すスーパーグリーン製品開発を推進しています。

活動の概要と具体事例

主要製品全てを環境配慮開発へ

◆当初の計画通り2006年度までに主要開発製品全てが環境配慮型製品になりました。

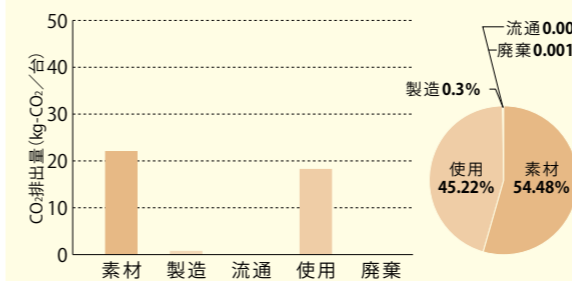
また、環境配慮型製品アセスメントを国内グループ会社に展開しました。



環境配慮型製品基準説明会

◆これまで実施したランプのLCA精度をさらに改善し、ランプのLCAを設計・開発ステップの仕組みに入れました。また対象を拡大して電源・装置のLCAを実施しました。

液晶プロジェクタ用高輝度放電ランプ点灯電源におけるライフサイクルの各ステージ別CO<sub>2</sub>排出量



注) 本電源は海外で生産している為、流通ステージを除く。同様の理由で、CO<sub>2</sub>換算原単位値は日本国内生産を採用。

◆環境配慮型製品は、2006年度計59件を認定登録。今後も全ての製品を環境配慮型製品としていきます。さらに

スーパーグリーン製品基準を策定し、運用を開始しました。  
 〈液晶プロジェクタ用高輝度放電ランプ点灯電源〉  
 外部トリガー方式の採用と部品の小型化等により軽量化を実現。環境効率が50%向上しました。

〈超高压UVランプ〉  
 新技術採用の電極により1.7倍の長寿命化と重量あたりの照度を15%改善。環境効率が91%向上しました。

〈エキシマVUV/O3洗浄装置のラインナップ〉  
 液晶や半導体製造工程で使用される本装置は、ランプの長寿命化、処理能力3.5倍および六価クロムフリーメッキ採用等により環境効率が70%向上しました。

〈UV照射装置の環境配慮型へのリニューアル〉  
 従来製品を環境配慮の視点からリニューアルすることで効率的に環境配慮・環境負担の低減を実現。環境効率が40%向上しました。

※ここでの環境効率とは『製品の価値/環境負荷』で算出。数値は当社従来比です。



SP-9合体

これからの取り組み

お客さまの声を取り入れた環境配慮型製品開発

環境配慮型製品として差別化した製品開発を進め、環境負担の少ない製品開発や革新的製品創出を目指し、お客さまのご要望や市場での環境負担低減に貢献していきます。今後も市場情報や技術情報、お客さまのご要望を積極的に取り入れ、ライフサイクルを通して環境に配慮した製品性能向上を目指します。

Message

ますます重要となる環境配慮型製品を開発

環境負担を減らすには、製品の開発段階から環境負担の低減を意識し、設計段階では目標値を設定し進めることが重要です。コスト低減や性能向上と同等に環境負担低減が開発や設計の基本課題になるよう目指します。

環境配慮型製品開発委員会  
辻 宏二



Question

温暖化対策を推進する上で大切なことは何でしょう？

Answer

全員が問題意識を持って取り組むことが大切だと考え「見える化」に力を注いでいます。

活動の指針と目標

1990年度比で10%以上CO<sub>2</sub>削減

ウシオ電機は全社環境行動計画の中で、2006年度のCO<sub>2</sub>削減目標を、売上高原単位で1990年度比10%以上と定めています。この目標達成に向け、以下の重点方針を軸として、活動を展開しました。

- 電力使用状態の「見える化」を拡大するとともに、生産設備の運転管理徹底、省エネ設計の導入など生産技術面でのエネルギー削減に取り組み、トータルエネルギーの合理化・効率化を図ります。
- 各事業所の省エネ推進組織を中心に事業所ごとの目標展開を図り、ムダ・ロスの排除を徹底します。
- A重油の削減、新エネルギーの導入検討など、既存エネルギーからの転換によるCO<sub>2</sub>削減を図っていきます。

活動の概要と具体事例

「見える化」の拡大や高効率化を図る

生産設備の省エネ設計を推進(播磨事業所)

生産技術部門の協力のもとに、生産設備の設計段階で省エネ方針を盛り込むようにしました。また既存設備への電力計設置や電力モニターの増設など「見える化」を図ることで電力削減効果を狙いました。

省エネ診断をもとに改善実施(播磨事業所)

省エネ分科会による現場巡回などの地道な活動に加え、電力会社による省エネ診断結果に基づいて、10数項目にわたる改善を実施しました。

A重油ボイラーの廃止(御殿場事業所)

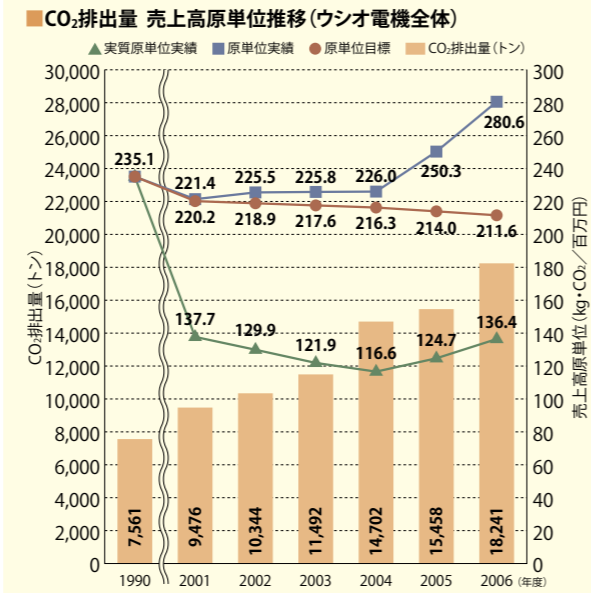
空調に使用していたA重油ボイラー1基を撤去し、高効率のインバータタイプエアコンに変更することで、CO<sub>2</sub>の削減を図りました。

これらの施策に加え、他の事業所においても従来からの省エネ方針を継続・強化して、エネルギーの削減に取り組んできました。

しかし、全社使用電力量の約80%を占める播磨事業所で最大規模の新棟が本格稼働し、生産ラインの移転に伴うエネルギーの増大があり、目標は未達に終わりました。

(ウシオ電機の場合、目標・実績ともに名目売上高で原単位を算出していますが、販売価格の下落等を考慮した実質売上高による原単位では、1990年度比で約40%削減しています。

このことから、電機電子4団体の基準に準拠して2007年度より目標設定や原単位の見直しを行う予定です。)



※電力のCO<sub>2</sub>換算係数は2006年4月に改正された「地球温暖化対策の推進に関する法律(温対法)」に基づき、0.555kg-CO<sub>2</sub>/kWhを使用

これからの取り組み

エネルギー使用状態の「見える化」をグループでも拡大

- 生産設備を中心に、設計・購入段階での省エネ検討を継続し、よりエネルギー効率の高い設備への転換を図ります。
- 太陽光発電など、CO<sub>2</sub>負荷の少ないエネルギー利用を検討・推進していきます。
- 電力モニターの増設など、エネルギー使用状態の「見える化」を拡大し、分析力のアップと省エネ意識の向上を図って、エネルギー削減につなげます。

Message

他人事では済まされない温暖化

温暖化がもたらす影響は既に他人事ではなくなっています。企業としても、個人としても、今何が出来るか? 将来に向けて何をすべきか? しっかりと意識を持って行動していくことが大切だと考えています。

地球温暖化対策委員会  
藤田 利和



Question

ウシオ電機のゼロエミッションはどこまで進みましたか？

Answer

播磨事業所はゼロエミッション達成目前。御殿場事業所もあと一歩です。

活動の指針と目標

第一に生産事業体のゼロエミッションの実現

廃棄物の発生を抑制して排出量を削減する。さらには埋立処分をなくす。これらは循環型社会実現のために必須の条件であると考えます。その第一歩として、ウシオ電機ではまず生産事業体のゼロエミッション\*を実現します。また、本社・営業といった事務部門でも、さらなる有効利用率の向上を図るとともに、廃棄物の発生そのものを抑制して排出を削減する取り組みを積極的に推進し、環境負荷の低減を図ります。

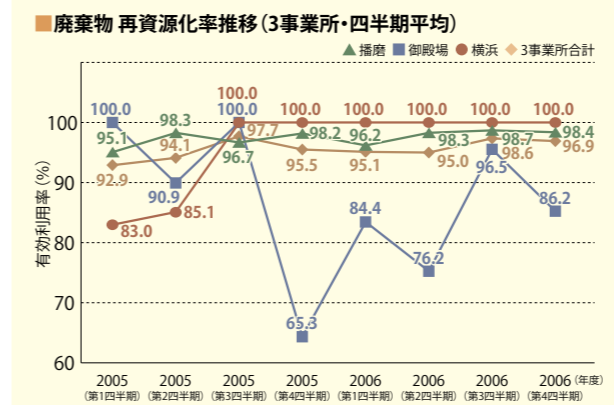
さらにこれらの取り組みをグループ各社に展開し、ウシオグループ全体での廃棄物削減=環境負荷の低減を目指します。

※ゼロエミッションの定義は、有効利用率99%以上としている。

活動の概要と具体事例

ウシオ電機のゼロエミッション実現はあと少し。今後はグループへの施策展開も

2005年度より横浜事業所および営業所、大阪支店はゼロエミッションを達成しています。2006年度は播磨事業所、御殿場事業所においても活動を推進してきましたが、年度内の達成はできませんでした。しかし、播磨事業所では2007年度第1四半期にゼロエミッションの達成が見込め、御殿場事業所においても埋立ゴミの大半を占めていたガラスくずの有効利用が決まり分別を開始したので、あと一歩という状況です。



また、テナントとして入居している本社・東京営業本部では、リサイクル業者の選定が独自ではできないため、排出抑制という観点から、2006年度より開始した「リユース可能な弁当容器」の利用が定着・拡大し、効果をあげています。

さらに、国内グループ各社とも情報共有化を試み、これらの施策の展開を図ってきました。主な事例を以下にあげます。

UVランプ再資源化の拡大(播磨事業所)

すでに2005年度から再資源化処理を開始した大型UVランプに続き、小型UVランプについても再資源化処理を本格的に開始しました。このことにより、埋立処分率を1%以下にする目処がたち、2007年度第1四半期にはゼロエミッションを達成する見込みです。

処分ルートの見直しで再資源化(御殿場事業所)

これまで埋立処分されていた石英ガラスくずについて、再資源化できる業者と契約を結ぶことで、埋立処分を大幅に減らすことができ、ゼロエミッション達成にあと一歩のところまでできました。

グループ各社との情報共有化

「USHIO ECO-SYS」(P8参照)を利用したグループ各社との情報共有化に向けたシステム構築を進めています。

これからの取り組み

グループ会社を含めた全体レベルでの排出量削減

- 御殿場事業所でのゼロエミッションを達成するとともに、全社的に廃棄物の排出量削減への取り組みを強化します。マテリアルフローコスト会計の導入工程を拡大し、廃棄物発生段階での抑制を図ります。
- 2007年度から本格導入される「USHIO ECO-SYS」を利用し、廃棄物排出状況の情報共有を推進することによって、グループ企業を含めた全体レベルでの排出量削減を図ります。

Message

次の課題は排出抑制

御殿場事業所でもゼロエミッション達成にあと一歩のところまで来ました。今後は排出量の抑制が大きな課題となってきます。循環型社会の実現に向け今後も努力していきます。

御殿場事業所 御殿場業務部  
山崎 浩一





Question

使用済みランプのリサイクルについてどう考えていますか？

Answer

ウシオは、使用済みUVランプの回収リサイクル体制を整備していきます。

活動の指針と目標

ライフサイクルトータルでの環境負荷低減を目指して

ウシオの主要製品である“ランプ”は消耗品です。お客さままでご使用いただき、使用済みとなったものは、お客さまの産業廃棄物として処分されています。特にUVランプは水銀を含有しており、お客さまでは処理困難な物として、決められた廃棄物処理をしなければいけないのが実情です。

ウシオ電機では、ライフサイクルトータルでの環境負荷低減を行うことは環境貢献の1つと考え、お客さま使用の段階における環境負荷低減だけでなく、使用済み・廃棄段階の環境負荷低減を目指しています。そこで、UVランプの使用済み製品リサイクルによる、資源の有効利用を目標としました。

活動の概要と具体事例

使用済みショートアークUVランプのリサイクル処理技術確立

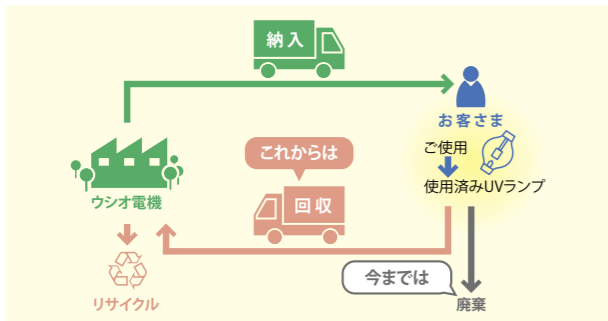
ウシオ電機は、使用済みショートアークUVランプのリサイクル処理技術を確立しました。2005年度の大型ショートアークUVランプに続き、2006年度は小型ショートアークUVランプの再資源化技術開発、および再資源化ルート確立し、有効利用率99%以上(実質100%)を達成しました。



ショートアークUVランプ

この実績をもとに次の段階として、お客さまにおける使用済み半導体露光用ショートアークUVランプの回収リサイクルを目指し、関係部署・関係企業との連携を図り、実現のための検討を行いました。

そして、リサイクルシステム構築に向け廃棄物処理の広域認定の申請を行い、2007年4月に環境省より認定されました。(認定番号:第105号)



これからの取り組み

事業の発展とリサイクルシステムの改善

半導体露光用ショートアークUVランプの使用済み回収リサイクルの趣旨にご賛同、ご協力いただける国内のお客さまには、契約の上、順次リサイクル事業を展開していきます。

運用を通して、リサイクルシステムの改善にも努めていきます。また、その他のUVランプについても、リサイクルシステムの構築を検討していきます。

Message

お客さまの立場に合ったサービスを…  
ライフサイクルトータルでの環境負荷低減を行うことが、ウシオの環境貢献の1つでもあります。お客さまの立場に立って色々な観点から検討し、法に従った提案をしたいと考えています。



リサイクル委員会 糸 幸二

Question

環境の課題の中で「環境リスク」をどのように捉えていますか？

Answer

「環境リスク」対応は「守り」の強化、環境経営の「攻め」を推進する前提です。

活動の指針と目標

「環境リスクマネジメントガイドライン」を制定し、グループ全体で運用

ウシオは、環境に関連するリスクを経営リスクの重大な要素として捉え、グループ全体でその低減・回避に取り組みます。各サイトで構築・運用している環境マネジメントシステムをグループ環境経営の視点から見直し、強化します。

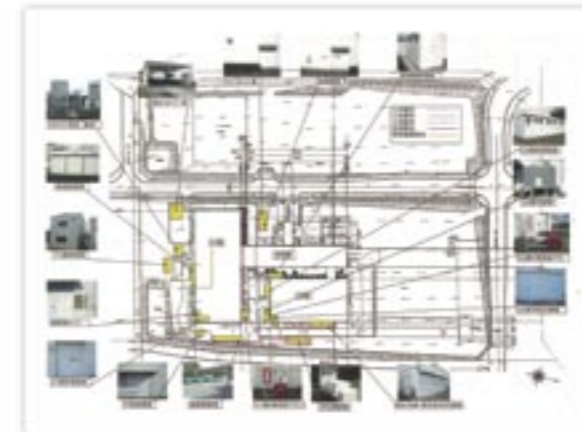
- 各サイトの取り組み内容を合わせる。
  - 社員一人ひとりのリスク感性を一層向上させる。
  - 本社が環境リスク情報を迅速に集約、共有化し、万一の場合に迅速に対応する。
- などを明文化した「環境リスクマネジメントガイドライン」を制定し、グループ全体での運用を目指します。

活動の概要と具体事例

環境リスクに強い体質作り

2005年度の「環境リスクマネジメント委員会」の発足、「環境リスク情報の一元化ルール」の制定をふまえ、2006年度ウシオ電機ではより具体化した活動に取りかかりました。

- ◆2006年10月、「環境リスクマネジメントガイドライン」を制定。先の「環境リスク情報の一元化ルール」はこのガイドラインに含めました。2007年1月から2月にかけて、各サイトで環境リスク講習会を実施し、ガイドラインの内容の周知徹底を図りました。
- ◆2007年1月、各サイトはガイドラインに沿って環境ハザードマップを作成しました。



生産事業所環境ハザードマップ作成例

- ◆2007年3月、環境リスクマップ作成のレベル合わせのための「環境リスクの評価方法・基準」をガイドラインの添付文書として発行しました。これに基づき、各サイトは環境ハザードのリスクを評価し、環境リスクマップを作成しました。
- ◆環境マニュアルはガイドラインに沿って見直しを実施しました。例えば、法規制等の定期的調査の実施は「3ヶ月に1回以上」、順守評価の実施は「1ヶ月に1回(測定のある場合は都度)」と、実施期間を明確にしました。この順守評価は、本社の環境統括部門長に報告。内部統制のコンプライアンス体制とリスク管理体制の一つになっています。
- ◆主要生産品目に超高圧UVランプを持つ事業所では、「水銀」を「著しい環境側面」として、関係者に対する教育訓練を実施しています。2007年3月には、環境リスク低減と安全衛生向上活動の強化として、播磨事業所のマネージャー以上を対象に「水銀取り扱い」に関する講習会を実施しました。



「水銀取り扱い」に関する講習会

これからの取り組み

ガイドラインを国内外のグループ会社に展開

2007年3月7日、国内外のグループ会社のトップが一堂に会する「グループ環境会議」で「環境リスクマネジメントガイドライン」をグループ展開することが確認されました。まず、国内グループに展開中です。

2007年度中には海外グループへ展開する予定です。

Message

「転ばぬ先の杖」をグループ展開  
「環境リスク」への対応は「転ばぬ先の杖」、「守り」の強化です。2007年度は「環境リスクマネジメントガイドライン」をウシオグループ全体に展開し、グループ環境ガバナンスの一層の強化に努めます。



環境リスクマネジメント委員会 数永 健二

Question

環境負荷の数値をどのように捉えていますか？

Answer

グループ全体の事業活動に関わる数値を把握し、環境負荷低減と環境経営へつなげています。

活動の指針と目標

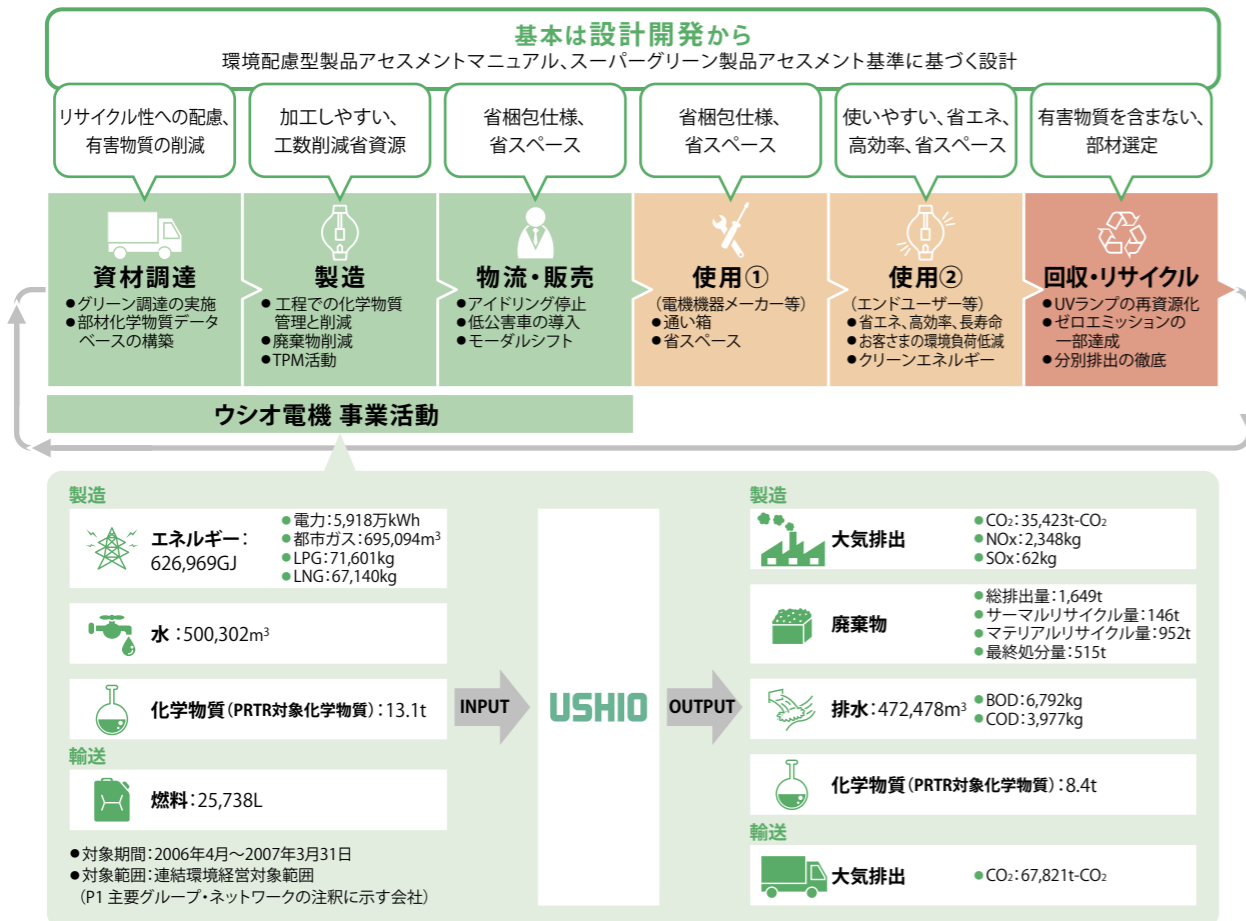
環境関連情報の収集・データベース化の推進

効率的な環境保全活動を行っていくためには、環境経営の視点が必要です。ウシオグループ一体での環境経営を推し進めていくために、グループ全体の環境負荷を把握しています。今回は輸送についてもグループ全体へ集計範囲を広げるなど、より一層の精度向上に努めました。

活動の概要と具体事例

ウシオグループのエコバランス

ウシオグループの事業活動が環境に与える影響を、製品のライフサイクルの段階ごとに把握するよう努めています。



これからの取り組み

情報を把握し、より効果的な投資を実践

グループ全体の事業活動と製品のライフサイクルが環境に与える負荷を、より広範囲に、かつ詳細に把握することにより、より効果的な投資を行い、一層の環境経営の向上に取り組みます。今後、効率的に負荷集計を行うために、USHIO ECO-SYS (P8参照) を導入し、これらの情報の収集・データベース化を進めます。

また、マテリアルフローコスト会計の導入により、特に製造ライン上での廃棄物の削減にチャレンジしていきます。

Question

どのような環境投資を行いましたか？

Answer

直接環境影響を及ぼす範囲だけでなく、LCAを考慮した投資を行いました。

活動の指針と目標

グループ全体で環境経営を実践

ウシオグループでは、効率的な環境投資を行うために、グループ全体で環境会計を導入しています。グループ全体で環境経営を実践していく方針に基づき、グループ全体の環境投資とその効果を把握し、次年度の環境投資へとつなげています。

活動の概要と具体事例

2006年度の費用と効果額

2006年度は国内外のグループ会社(全連結環境経営対象会社)で統一基準に基づき集計しました。グループ全体の事業活動と製品のライフサイクルが環境に与える負荷を詳細に把握し、効率的な環境経営に取り組んでいます。設立などにより新たに対象となったグループ会社へ範囲を広げておりますが、より集計精度のアップと効果的投資につながる分析力向上を進めています。

2006年度は、費用合計が約705百万円、効果額合計は約144百万円(実質的效果および推定的効果)を計上しました。2005年度と比較して、管理活動費と研究開発費が大幅に増加しましたが、これは国内に加えて特に海外でのEMS活動が活発になったこと、有害物質調査・削減活動などを推進したことによるものです。

当社およびグループ会社製品の代表的な省エネ型製品について、製品使用時のエネルギー削減による効果を算出しました。

- 対象期間: 2006年4月～2007年3月31日
  - 対象範囲: 連結環境経営対象範囲 (P1 主要グループ・ネットワークの注釈に示す会社)
  - 環境保全コストの算定基準:
    - ①費用額には人件費、投資の減価償却費を含みます。
    - ②設備投資額の減価償却費は5年の定額法を用いています。
    - ③環境保全コストとそれ以外のコストが複合したものは、環境保全に関わる部分だけを計上しました。
  - 効果: 実質的效果(直接金額で算出)と推定的効果(可能性を推定して算出)としています。
- ※CO<sub>2</sub>削減効果: 「削減電力量」×「2006年度出荷本数」×CO<sub>2</sub>換算係数にて算出しました。

| 分類     | 主な内容  | 費用    | 環境設備投資                                       | 効果額   |       |
|--------|---|-------|--|-------|-------|
|        |   |       |  | 実質的效果 | 推定的効果 |
| 公害防止   | 中和槽の保守やフッ素処理設備の新設・増設による汚染予防、排水濃度監視システムによるリスク低減 など | 35.1  | 29.1<br>(排水濃度監視システム、電力監視システム、空調機器更新、フッ素処理設備) | 0.2   | 47.7  |
| 地球環境保全 | 高効率空調への更新や照明設備の更新による省エネ、電力監視システムによる「見える化」 など      | 67.1  |  | 25.5  | 2.3   |
| 資源循環   | 廃棄物処分費用、資源廃棄物売却益、廃棄物計量システム など                     | 52.0  |  | 27.6  | 0.0   |
| 上・下流   | グリーン調達対応、通い箱による梱包資材削減 など                          | 20.4  |  | 0.0   | 0.1   |
| 管理活動   | 環境マネジメントシステム維持、監視井戸・放流水分析によるリスク低減活動 など            | 223.4 |  | 0.0   | 23.0  |
| 研究開発   | ランプのLCA把握、製品寿命特性改善、有害物質削減のための設計変更 など              | 289.3 |  | 0.0   | 17.5  |
| 社会活動   | 寄付、美化、緑化活動 など                                     | 17.4  | 0.0  | 0.2   |       |
| 環境損傷対応 | —   | 0.0   | 0.0  | 0.0   |       |
| 合計     |   | 704.8 |  | 53.4  | 90.9  |

|                            |                           |   |
|----------------------------|---------------------------|---|
| 社会におけるCO <sub>2</sub> 削減効果 | 190,505 t-CO <sub>2</sub> | ※CO <sub>2</sub> 削減効果: 「削減電力量」×「2006年度出荷本数」×CO <sub>2</sub> 換算係数にて算出しました。 |
|----------------------------|---------------------------|---|

主な環境設備投資

| 設備         | 設備概要   |
|------------|--|
| 排水濃度監視システム | 排水の水素イオン濃度(pH)を自動測定し、パソコン上で監視できる               |
| 電力監視システム   | 「見える化」を進めるためのシステム増設。ラインごとに使用電力をきめ細かく把握することができる |
| 空調機器更新     | 水冷式エアコンを空冷式のインバーターエアコンに更新し、ボイラーも不要になった         |
| フッ素処理設備    | フッ素含有の排水は廃棄物として処理していたが、フッ素処理装置により、水の再利用が可能となった |

これからの取り組み

より詳細な効果算出と分析で効率的な環境経営を

グループ一丸となって環境保全活動への取り組みを推進する中、今後も費用増が考えられますが、公害防止に向けたリスク回避のためのマネジメント強化などを推進していきます。2006年3月にウシオ電機へ先行導入したUSHIO ECO-SYS (P8参照) を、2007年度は国内外のグループ会社へ拡大展開します。全グループ会社での費用の把握に加え、効果算出と分析を行い、効率的な環境経営につなげます。

サイトデータ

ウシオはグループ一体となった環境保全強化を進めています。USHIO ECO-SYS (P8参照) や各種ガイドラインの導入、EMS認証の取得などを行ってきました。2005年度にはグループ会社を含めアスベスト使用の一斉調査(製品への過去使用状況調査を含む)を行い、問題のない事を確認し同時に公表も行いました。また各サイトでは、さらなる独自の取り組みを実施し、持続的社会的発展に向け貢献しています。

なお、2006年度、各サイトに対する環境関連の法令違反・訴訟・罰金・科料・事故はありませんでした。

生産サイト

□ 国内

ウシオ電機株式会社 播磨事業所(ランプカンパニー)



〒671-0224  
兵庫県姫路市別所町  
佐土1194  
■主要生産品目  
超高圧UVランプ、NSHランプ、ハロゲンランプ、希ガスランプ、エキシマランプ など

●EMS等の認証状況  
ISO14001/1997.10(2004.10御殿場事業所・東京営業本部・大阪支店を含め拡大認証)  
ISO9001/1993.05(1995.10御殿場事業所を含め拡大認証)

●主な環境関連の取り組み  
①サプライヤーへの監査実施によるグリーン調達確保と連携強化  
②社内教育制度により、70名を超える内部環境監査員が在籍(2007.5.15現在)  
③水素発生装置を導入し水素ガスの安定供給とエネルギーコストの削減。トレーラーの輸送回数が半減し、環境負荷低減に貢献  
④社員、その家族、近隣住民などが参加する「ウシオフェスティバル」において、環境ビデオ放映や環境への取り組みを展示

●PCB保有状況  
使用電気機器74台を保管(PCB廃棄物処理申込の早期登録完了)

| INPUT          |         |
|----------------|---------|
| 項目             | 数値      |
| 総エネルギー投入量(GJ)  | 259,815 |
| 水資源(m³)        | 64,849  |
| OUTPUT         |         |
| 項目             | 数値      |
| 温室効果ガス(トン-CO₂) | 14,708  |
| NOx(kg)        | 426     |
| SOx(kg)        | 0       |
| 総排水量(m³)       | 52,600  |
| BOD(kg)        | 6,720   |
| COD(kg)        | 3,627   |
| クロロホルム(kg):大気  | 6,600   |
| PRTR 廃棄物       | 420     |
| モリブデン(kg):下水   | 5       |
| モリブデン(kg):汚水   | 35      |
| 総排出量(kg)       | 504,992 |
| 廃棄物 最終処分量(kg)  | 11,565  |
| 資源有効利用率(%)     | 97.7    |

ウシオ電機株式会社 生産技研横浜事業所(システムカンパニー)

※横浜営業部門含む

ゼロエミ  
達成サイト



〒225-0004  
神奈川県横浜市青葉区  
元石川町6409  
■主要生産品目  
各種露光装置、スポットUV照射装置、光測定器 など

●EMS等の認証状況  
ISO14001/2004.02  
ISO9001/1997.07

●主な環境関連の取り組み  
①エコアクション21説明会を開催し、環境活動に取り組むサプライヤーの拡充  
②構内工事などを行う際、環境側面の事前把握と事後の確認を継続  
③リスク管理の一環として、環境に影響をおよぼす恐れのある実験を行う際、事前のチェック体制を強化

●PCB保有状況  
使用電気機器3台を保管(PCB廃棄物処理申込の早期登録完了)

| INPUT          |        |
|----------------|--------|
| 項目             | 数値     |
| 総エネルギー投入量(GJ)  | 26,181 |
| 水資源(m³)        | 24,143 |
| OUTPUT         |        |
| 項目             | 数値     |
| 温室効果ガス(トン-CO₂) | 1,464  |
| NOx(kg)        | 26     |
| SOx(kg)        | 9      |
| 総排水量(m³)       | 22,999 |
| BOD(kg)        | -      |
| COD(kg)        | -      |
| PRTR           | -      |
| 総排出量(kg)       | 55,976 |
| 廃棄物 最終処分量(kg)  | 0      |
| 資源有効利用率(%)     | 100.0  |

ウシオ電機株式会社 御殿場事業所

※ランプカンパニー・システムカンパニーの両カンパニー生産サイト



〒412-0038  
静岡県御殿場市駒門1-90  
■主要生産品目  
超高圧UVランプ、液晶パネル関連装置、露光装置 など

●EMS等の認証状況  
ISO14001/2004.10(ランプカンパニー拡大認証時)、2004.02(システムカンパニー)  
ISO9001/1995.10(ランプカンパニー拡大認証時)、1997.07(システムカンパニー)

●主な環境関連の取り組み  
①新棟建設にともなう土壌分析調査を実施し、問題がないことを確認  
②空調用A重油ボイラー(1基)を廃止し、CO₂削減を図る  
③石英ガラス屑を路盤材料としてリサイクル化

●PCB保有状況  
使用・保管しているものは無し

| INPUT          |         |
|----------------|---------|
| 項目             | 数値      |
| 総エネルギー投入量(GJ)  | 33,152  |
| 水資源(m³)        | 53,287  |
| OUTPUT         |         |
| 項目             | 数値      |
| 温室効果ガス(トン-CO₂) | 1,877   |
| NOx(kg)        | 76      |
| SOx(kg)        | 50      |
| 総排水量(m³)       | 53,287  |
| BOD(kg)        | -       |
| COD(kg)        | -       |
| クロロホルム(kg):大気  | 1,050   |
| PRTR           | -       |
| 総排出量(kg)       | 122,502 |
| 廃棄物 最終処分量(kg)  | 16,275  |
| 資源有効利用率(%)     | 86.7    |

ウシオライティング株式会社



〒679-2215  
兵庫県神崎郡福崎町  
西治860-22  
■主要生産品目  
照明用ハロゲンランプ、メタルハライドランプ、特殊ヒーター、ファイバー光源装置 など

●EMS等の認証状況  
ISO14001/2003.01(2006.03に支店など5拠点を含め拡大認証)  
ISO9001/2001.12  
OHSAS18001/2004.09

●主な環境関連の取り組み  
①インバータ搭載省エネ機器への更新。特に空気圧縮機にて省エネに貢献  
②OHSAS18001とISO14001を一本化して運用。効率良い運営を実現  
③周辺緑化整備活動を町・工業団地とともに推進

●PCB保有状況  
使用・保管しているものは無し

| INPUT          |         |
|----------------|---------|
| 項目             | 数値      |
| 総エネルギー投入量(GJ)  | 49,439  |
| 水資源(m³)        | 28,063  |
| OUTPUT         |         |
| 項目             | 数値      |
| 温室効果ガス(トン-CO₂) | 2,757   |
| NOx(kg)        | 70      |
| SOx(kg)        | 0       |
| 総排水量(m³)       | 28,063  |
| BOD(kg)        | 36      |
| COD(kg)        | 97      |
| モリブデン(kg):下水   | 0       |
| PRTR 廃棄物       | 154     |
| 総排出量(kg)       | 118,683 |
| 廃棄物 最終処分量(kg)  | 17,185  |
| 資源有効利用率(%)     | 85.5    |

群馬ウシオ電機株式会社



〒374-8521  
群馬県館林市近藤町262  
■主要生産品目  
事務用機器、医療用機器、光源応用機器、放電灯用点灯電源 など

●EMS等の認証状況  
ISO14001/2006.05  
ISO9001/2002.01

●主な環境関連の取り組み  
①購入品の簡易梱包化を実施し環境負荷低減・コスト削減  
②5S活動を通じて、敷地周辺の清掃・整備を実施  
③環境配慮型製品開発を技術標準とし、環境に配慮した新製品作り(RoHS対応製品の設計・製作)

●PCB保有状況  
使用電気機器1台を保管

| INPUT          |       |
|----------------|-------|
| 項目             | 数値    |
| 総エネルギー投入量(GJ)  | 4,987 |
| 水資源(m³)        | 1,472 |
| OUTPUT         |       |
| 項目             | 数値    |
| 温室効果ガス(トン-CO₂) | 282   |
| NOx(kg)        | 28    |
| SOx(kg)        | 0     |
| 総排水量(m³)       | 1,464 |
| BOD(kg)        | -     |
| COD(kg)        | -     |
| PRTR           | -     |
| 総排出量(kg)       | 7,839 |
| 廃棄物 最終処分量(kg)  | 5,929 |
| 資源有効利用率(%)     | 24.4  |

筑波ウシオ電機株式会社



〒300-2635  
茨城県つくば市東光台5-2-1  
■主要生産品目  
メタルハライドランプ、クセノンハライドランプ など

●EMS等の認証状況  
ISO14001/2005.04  
ISO9001/2004.03

●主な環境関連の取り組み  
①資源物搬出量の削減において、目標値4,714kgに対して4,670kgと達成する  
②特別産業廃棄物(水銀入りランプ、廃油、汚泥)の削減に努めた  
③市場からの水銀入りランプの返却数も昨年比で減少している

●PCB保有状況  
使用電気機器12台を使用しています

| INPUT          |        |
|----------------|--------|
| 項目             | 数値     |
| 総エネルギー投入量(GJ)  | 11,161 |
| 水資源(m³)        | 1,879  |
| OUTPUT         |        |
| 項目             | 数値     |
| 温室効果ガス(トン-CO₂) | 622    |
| NOx(kg)        | 5      |
| SOx(kg)        | 0      |
| 総排水量(m³)       | 1,874  |
| BOD(kg)        | 1      |
| COD(kg)        | 0      |
| PRTR           | -      |
| 総排出量(kg)       | 16,710 |
| 廃棄物 最終処分量(kg)  | 8,315  |
| 資源有効利用率(%)     | 50.2   |

兵庫ウシオライティング株式会社



〒671-2517  
兵庫県宍粟市山崎町生谷159-1  
■主要生産品目  
店舗照明用ハロゲンランプ、舞台照明用ハロゲンランプ、舞台照明用コイルマウント など

●EMS等の認証状況  
EMS構築中

●主な環境関連の取り組み  
①ガス、動力の使用量を削減するため、グラフによる「見える化」での管理を実施  
②工場環境整備活動として毎週、全員参加の4S活動を実施  
③一般廃棄物のマテリアルリサイクルへの移行を行う

●PCB保有状況  
使用・保管しているものは無し

| INPUT          |        |
|----------------|--------|
| 項目             | 数値     |
| 総エネルギー投入量(GJ)  | 5,926  |
| 水資源(m³)        | 1,057  |
| OUTPUT         |        |
| 項目             | 数値     |
| 温室効果ガス(トン-CO₂) | 333    |
| NOx(kg)        | 41     |
| SOx(kg)        | 0      |
| 総排水量(m³)       | 1,057  |
| BOD(kg)        | -      |
| COD(kg)        | -      |
| PRTR           | -      |
| 総排出量(kg)       | 10,464 |
| 廃棄物 最終処分量(kg)  | 8,341  |
| 資源有効利用率(%)     | 20.3   |

日本電子技術株式会社

ゼロエミ  
達成サイト



〒229-0021  
神奈川県相模原市  
高根2-2-27  
■主要生産品目  
映像信号切替装置、PHOBOS  
基板(映像用)、TAB検査装置用  
カメラ基板 など

- EMS等の認証状況  
ISO14001/2004.08  
ISO9001/1999.05
- 主な環境関連の取り組み  
①2006年度、ゼロエミッションを達成  
②新規設計基板の鉛フリー化推進において、目標値2003年度比  
40%UPに対し、82%UP  
③廃棄物の削減において、目標値2003年度比20%削減に対し、  
80%削減  
④グリーン税制付環境対応車を導入

●PCB保有状況  
使用・保管しているものは無し

| INPUT                       |       |
|-----------------------------|-------|
| 項目                          | 数値    |
| 総エネルギー投入量(GJ)               | 839   |
| 水資源(m <sup>3</sup> )        | 333   |
| OUTPUT                      |       |
| 項目                          | 数値    |
| 温室効果ガス(トン-CO <sub>2</sub> ) | 48    |
| NOx(kg)                     | 14    |
| SOx(kg)                     | 0     |
| 総排水量(m <sup>3</sup> )       | 333   |
| BOD(kg)                     | -     |
| COD(kg)                     | -     |
| PRTR                        | -     |
| 総排出量(kg)                    | 3,410 |
| 廃棄物 最終処分量(kg)               | 0     |
| 資源有効利用率(%)                  | 100.0 |

海外

USHIO AMERICA, INC. <UAI>

※数値・取り組みに関しては、USHIO CANADA, INC. <UCI>を含む



5440 Cerritos Avenue,  
Cypress, CA 90630, U.S.A.  
■主要生産品目  
超高圧UVランプ、OA機器用メ  
タルハライドランプ、ハロゲン  
ランプ など

- EMS等の認証状況  
EMS構築中  
ISO9001/2005.10(UAIオレゴン工場)

- 主な環境関連の取り組み  
①従来からのプラスチック製梱包緩衝材を分解可能な緩衝材(ポテ  
トやコーンの澱粉)に全面切り替え  
②3名がISO14001主任監査員資格(BVQI)を取得。サイプレス・  
アーバイン勤務の全社員約10%にあたる10名、オレゴン工場に  
勤務する全社員の約15%にあたる11人がISO14001の社内監査  
員として認定  
③商工会議所主催プログラムの中の一つ「ニューバグ・リーダー  
シップ・プログラム」において、「環境マネジメント」を題材とした  
会にて、オレゴン工場の環境への取り組みを紹介

| INPUT                       |         |
|-----------------------------|---------|
| 項目                          | 数値      |
| 総エネルギー投入量(GJ)               | 30,683  |
| 水資源(m <sup>3</sup> )        | 24,284  |
| OUTPUT                      |         |
| 項目                          | 数値      |
| 温室効果ガス(トン-CO <sub>2</sub> ) | 1,709   |
| NOx(kg)                     | 77      |
| SOx(kg)                     | 0       |
| 総排水量(m <sup>3</sup> )       | 24,284  |
| BOD(kg)                     | -       |
| COD(kg)                     | -       |
| 総排出量(kg)                    | 215,920 |
| 廃棄物 最終処分量(kg)               | 196,937 |
| 資源有効利用率(%)                  | 8.8     |

CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS USA, INC. <CDSU>

※数値・取り組みに関しては、CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA, INC. <CDSC>  
Event Audio Visual Group <EAVG>を含む



10550 Camden Drive,  
Cypress, CA 90630, U.S.A.  
■主要生産品目  
劇場用映写システム、光源開  
連機材、デジタル映像機器、各  
種プロジェクタ等の開発・製造  
など

- EMS等の認証状況  
ISO14001/2007.06<CDSC>  
ISO9001/1987.06<CDSC>

- 主な環境関連の取り組み  
①汚染物質の削減による業績の改善<CDSU>  
②電気使用方法の改善による、二酸化炭素の減少に努める  
③「リサイクル計画」を強化し、リサイクル率のUP・廃棄物処理にお  
ける作業工数を削減  
④バッテリーや缶、ボトル、紙製品、トナーカートリッジをリサイク  
ルまたはリユースする<EAVG>

| INPUT                       |         |
|-----------------------------|---------|
| 項目                          | 数値      |
| 総エネルギー投入量(GJ)               | 71,978  |
| 水資源(m <sup>3</sup> )        | 8,859   |
| OUTPUT                      |         |
| 項目                          | 数値      |
| 温室効果ガス(トン-CO <sub>2</sub> ) | 3,936   |
| NOx(kg)                     | 438     |
| SOx(kg)                     | 0       |
| 総排水量(m <sup>3</sup> )       | 8,859   |
| BOD(kg)                     | -       |
| COD(kg)                     | -       |
| 総排出量(kg)                    | 359,800 |
| 廃棄物 最終処分量(kg)               | 141,970 |
| 資源有効利用率(%)                  | 60.5    |

BLV LICHT- UND VAKUUMTECHNIK GmbH <BLV>

※数値・取り組みに関しては、Dipl.-Ing. Reinhold Eggers  
GmbH <EGG> Natrium S.A. <NSA>を含む



Münchner Straße 10, 85643  
Steinhöring, Germany  
■主要生産品目  
メタルハライドランプ、照明用  
ハロゲンランプ、ヒータ用ハロ  
ゲンランプ、高圧UVランプ など

- EMS等の認証状況  
EMS構築中  
ISO9001/1991.12
- 主な環境関連の取り組み  
①使用済みランプ回収・リサイクル会社の共同設立(WEEE対応)  
②RoHS指定物質不使用の保証(RoHS対応)  
③天然ガスを暖房用燃料として再使用(環境負荷の低減)  
④熱交換器の設置による省エネ化

| INPUT                       |        |
|-----------------------------|--------|
| 項目                          | 数値     |
| 総エネルギー投入量(GJ)               | 47,799 |
| 水資源(m <sup>3</sup> )        | 3,026  |
| OUTPUT                      |        |
| 項目                          | 数値     |
| 温室効果ガス(トン-CO <sub>2</sub> ) | 2,653  |
| NOx(kg)                     | 28     |
| SOx(kg)                     | 1      |
| 総排水量(m <sup>3</sup> )       | 3,026  |
| BOD(kg)                     | -      |
| COD(kg)                     | -      |
| 総排出量(kg)                    | 74,840 |
| 廃棄物 最終処分量(kg)               | 12,040 |
| 資源有効利用率(%)                  | 83.9   |

USHIO (SUZHOU) CO., LTD. <USZ>



6, Yuyang Street,  
Suzhou New District,  
Suzhou, P.R.C.  
■主要生産品目  
OA機器用ハロゲンランプ、希ガス  
蛍光灯ランプ、プロジェクタ用光源  
など

- EMS等の認証状況  
ISO14001/2005.03  
ISO9001/2005.03  
OHSAS18001/2006.05

- 主な環境関連の取り組み  
①グリーン調達システム推進について、お客さまによるグリーン  
工場審査を行われ、高い評価をいただいた  
②社員啓発活動として食堂、製造現場など環境ポスターを掲示  
③社内環境美化運動として、事務所や製造現場などに環境保護植  
物を設置

| INPUT                       |        |
|-----------------------------|--------|
| 項目                          | 数値     |
| 総エネルギー投入量(GJ)               | 24,231 |
| 水資源(m <sup>3</sup> )        | 35,551 |
| OUTPUT                      |        |
| 項目                          | 数値     |
| 温室効果ガス(トン-CO <sub>2</sub> ) | 1,351  |
| NOx(kg)                     | 38     |
| SOx(kg)                     | 0      |
| 総排水量(m <sup>3</sup> )       | 21,503 |
| BOD(kg)                     | 0      |
| COD(kg)                     | 14     |
| 総排出量(kg)                    | 13,245 |
| 廃棄物 最終処分量(kg)               | 13,245 |
| 資源有効利用率(%)                  | 0.0    |

USHIO PHILIPPINES, INC. <UPI>



First Cavite Industrial  
Estate, Barangay Langkaan,  
Dasmariñas, Cavite, Philippines  
■主要生産品目  
照明用・OA機器用ハロゲンラ  
ンプ など

- EMS等の認証状況  
ISO14001/2004.06  
ISO9002/2000.12

- 主な環境関連の取り組み  
①5S活動の徹底による作業工数やエネルギー・廃棄物の低減活動  
②製造工程の見直しによるロスコストの低減と生産性の向上

| INPUT                       |         |
|-----------------------------|---------|
| 項目                          | 数値      |
| 総エネルギー投入量(GJ)               | 23,771  |
| 水資源(m <sup>3</sup> )        | 240,199 |
| OUTPUT                      |         |
| 項目                          | 数値      |
| 温室効果ガス(トン-CO <sub>2</sub> ) | 1,333   |
| NOx(kg)                     | 177     |
| SOx(kg)                     | 0       |
| 総排水量(m <sup>3</sup> )       | 240,119 |
| BOD(kg)                     | 36      |
| COD(kg)                     | 240     |
| 総排出量(kg)                    | 40,242  |
| 廃棄物 最終処分量(kg)               | 13,832  |
| 資源有効利用率(%)                  | 65.6    |

TAIWAN USHIO LIGHTING, INC. <TULI>



#82, Taiho Road, Taiho-Li, Chupei,  
Hsinchu Hsein, Taiwan, R.O.C.  
■主要生産品目  
舞台照明用ハロゲンランプ、  
一般照明用ハロゲンランプ、  
メタルハライドランプ など

- EMS等の認証状況  
ISO14001/2004.04  
ISO9001/2003.03 (ISO9002/1997.07USHIO TAIWAN, INC.として取得  
後、分社の後規格変更)

- 主な環境関連の取り組み  
①裏紙を利用した紙使用の推進、トイレトーパー使用量の削  
減など、リユース・リデュース活動を展開  
②毎月主題を決め、各部署で5S担当者を決め見回り活動  
③毎週金曜日終業時刻前に20分間の一斉清掃。隔週で工場屋外  
の雑草取りなどの清掃

| INPUT                       |        |
|-----------------------------|--------|
| 項目                          | 数値     |
| 総エネルギー投入量(GJ)               | 17,425 |
| 水資源(m <sup>3</sup> )        | 4,588  |
| OUTPUT                      |        |
| 項目                          | 数値     |
| 温室効果ガス(トン-CO <sub>2</sub> ) | 971    |
| NOx(kg)                     | 36     |
| SOx(kg)                     | 0      |
| 総排水量(m <sup>3</sup> )       | 4,588  |
| BOD(kg)                     | -      |
| COD(kg)                     | -      |
| 総排出量(kg)                    | 17,170 |
| 廃棄物 最終処分量(kg)               | 8,867  |
| 資源有効利用率(%)                  | 48.4   |

## 非生産サイト

### 国内

**ウシオ電機株式会社 本社** ■主要業務/ウシオ電機およびウシオグループ統括業務 など 〒100-8150 東京都千代田区大手町2-6-1



- EMS等の認証状況  
ISO14001/2004.12
- 主な環境関連の取り組み  
①EMS活動などが評価され、(株)日本システム企画社主催「環境マネジメント大賞」の特別賞「本社EMS賞」を受賞  
②本社電気使用量2003年度比20%の削減  
③社内教育制度により、内部環境監査員が本社勤務者に対し13%超(2007年5月15日現在)  
④マイカップ対応自販機導入による、資源の有効利用と廃棄物の削減

**ウシオ電機株式会社 東京営業本部** ■主要業務/光源および光源ユニット・装置などの販売 〒100-8150 東京都千代田区大手町2-6-1



- EMS等の認証状況  
ISO14001/2004.10(ランプカンパニー拡大認証時)
- 主な環境関連の取り組み  
①環境配慮型製品の販売比率を増やすなどの目標をたて、活動を推進  
②マイカップ対応自販機導入による、資源の有効利用と廃棄物の削減  
③仕出し弁当の採用(リユース容器)による、廃棄物削減

**ウシオ電機株式会社 大阪支店** ■主要業務/光源および光源ユニット・装置などの販売 〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島5-13-9

**ゼロエミ  
達成サイト**



- EMS等の認証状況  
ISO14001/2004.10(ランプカンパニー拡大認証時)
- 主な環境関連の取り組み  
①A5用紙の利用促進により、用紙消費量の削減(前期比1.4%減)  
②宅配使用紙袋・ダンボール箱の再利用促進により、廃棄物・排出量の削減  
③消灯の促進により、電気使用量の削減(前期比4.6%減)

**株式会社 ジーベックス** ■主要業務/映画館用映写機材、映写機用クセノンランプ、映画用音響機材などの販売 〒104-0032 東京都中央区八丁堀4-9-4西野金陵ビル

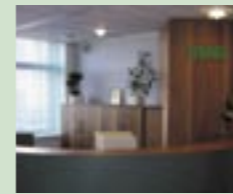


- EMS等の認証状況  
EMS構築中
- 主な環境関連の取り組み  
①ISO14001認証取得に向け、審査機関等を決定するなど具体的活動へ展開  
②営業サイトとして小さなことからできる限りEMSに取り組む  
③フィルムを使わないデジタルシネマの導入にともなう、フィルム消費や輸送コストなどの環境負荷の低減を推進

| 項目                          | 本社     | 東京営業本部 | 大阪支店  | ジーベックス |
|-----------------------------|--------|--------|-------|--------|
| INPUT                       |        |        |       |        |
| 総エネルギー投入量(GJ)               | 2,122  | 768    | 237   | 1,312  |
| 水資源(m <sup>3</sup> )        | -      | -      | -     | -      |
| 温室効果ガス(トン-CO <sub>2</sub> ) | 325    | 43     | 13    | 80     |
| NOx(kg)                     | 86     | 0      | 4     | 128    |
| SOx(kg)                     | 0      | 0      | 0     | 0      |
| OUTPUT                      |        |        |       |        |
| 総排水量(m <sup>3</sup> )       | -      | -      | -     | -      |
| 総排出量(kg)                    | 15,900 | 8,177  | 1,181 | 11,426 |
| 最終処分量(kg)                   | 330    | 475    | 0     | 10,546 |
| 資源有効利用率(%)                  | 97.9   | 94.2   | 100.0 | 7.7    |

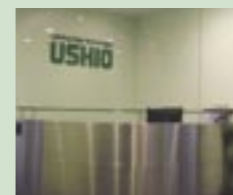
### 海外

**USHIO EUROPE B.V.** ■主要業務/超高圧UVランプ、クセノンショートアークランプ、ハロゲンランプ、光システム製品などの販売 Sky Park, Breguetlaan 16-18, 1438BC Oude Meer, the Netherlands  
※取り組み・数値に関してはUSHIO FRANCE S.A.R.L.(UFS)、USHIO DEUTSCHLAND GmbH(UD)、USHIO U.K., LTD.(UUK)を含む



- EMS等の認証状況  
EMS構築中
- 主な環境関連の取り組み  
①長寿命ランプなどの環境配慮型製品の提供  
②グループ各社が適切な環境対応ができるよう、欧州における各種環境情報の収集

**USHIO HONG KONG LTD.** ■主要業務/OA機器用ハロゲンランプ、希ガス蛍光ランプおよびユニット、プロジェクタ用光源などの販売 Tower6, 31/F, Suites 3113-14, The Gateway, 9 Canton Road, Tsim Sha Tsui, Kowloon, Hong Kong  
※数値・取り組みに関しては、USHIO LIGHTING (HONG KONG) CO., LTD.(ULHK)を含む



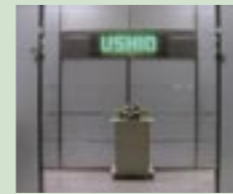
- EMS等の認証状況  
EMS構築中  
ISO9001/2003.06  
OHSAS18001/2003.12
- 主な環境関連の取り組み  
①電力量削減のため、こまめな消灯活動  
②廃棄物分別によるリサイクル活動

**USHIO TAIWAN, INC.** ■主要業務/超高圧UVランプ、ハロゲンランプ、各種露光装置、光学装置などの販売 #31, 10/F, Sec.1 Chung-Shiaw E.Road, Taipei, Taiwan, R.O.C.



- EMS等の認証状況  
ISO14001/2006.02
- 主な環境関連の取り組み  
①廃棄物削減活動において分別の徹底と、意識的なリデュース活動  
②有害ガス漏れなどに対する緊急対応演習の実施

**USHIO KOREA, INC.** ■主要業務/超高圧UVランプ、クセノンショートアークランプ、各種露光装置、光学装置などの販売 Dukheung Bldg., 14/F, 1328-10, Seocho-dong, Seocho-ku, Seoul, Korea



- EMS等の認証状況  
ISO14001/2006.12
- 主な環境関連の取り組み  
①廃棄物の削減や消灯の実施など日常業務においての徹底  
②使い捨てカップの使用禁止・紙の裏面利用等による資源の有効利用  
③ゴミの排出の時、分別排出の日常生活化

**USHIO SINGAPORE PTE LTD.** ■主要業務/超高圧UVランプ、クセノンショートアークランプ、ハロゲンランプ、光システム製品などの販売 #1, Jalan Kilang #05-01, Dynasty Industrial Bldg., Singapore 159402



- EMS等の認証状況  
EMS構築中
- 主な環境関連の取り組み  
①ISO14001認証取得に向け、具体的活動に展開  
②出張レポートなどの書類は電子化し、コピー枚数を削減  
③梱包材を再利用することによる、経費削減および廃棄物削減

| 項目                          | USHIO EUROPE B.V. | USHIO HONG KONG LTD. | USHIO TAIWAN, INC. | USHIO KOREA, INC. | USHIO SINGAPORE PTE LTD. |
|-----------------------------|-------------------|----------------------|--------------------|-------------------|--------------------------|
| INPUT                       |                   |                      |                    |                   |                          |
| 総エネルギー投入量(GJ)               | 1,988             | 5,513                | 2,558              | 4,459             | 625                      |
| 水資源(m <sup>3</sup> )        | 3,790             | 3,147                | 485                | 1,152             | 138                      |
| 温室効果ガス(トン-CO <sub>2</sub> ) | 117               | 307                  | 164                | 296               | 35                       |
| NOx(kg)                     | 128               | 0                    | 390                | 125               | 6                        |
| SOx(kg)                     | 0                 | 0                    | 0                  | -                 | 0                        |
| OUTPUT                      |                   |                      |                    |                   |                          |
| 総排水量(m <sup>3</sup> )       | 3,500             | 3,147                | 485                | 1,152             | 138                      |
| 総排出量(kg)                    | 172               | 46,206               | 1,605              | 806               | 1,993                    |
| 最終処分量(kg)                   | 172               | 46,206               | 771                | 331               | 1,993                    |
| 資源有効利用率(%)                  | 0.0               | 0.0                  | 52.0               | 58.9              | 0.0                      |

## USHIOサステナビリティレポート2007を読んで

株式会社FEM 代表取締役  
山口 真奈美



トップメッセージの『戦戦兢兢』の精神にもあるように、この報告書に網羅すべき内容について守りではなく『攻めの環境経営』という新たな境地に踏み込んだ姿勢は素晴らしく、どこに向かおうとしているのかが明確にサステナブルビジョンに示されています。創業から今までの歩みを踏まえ、自社の今の状態と今後目指すべきものをはっきり見据えている証拠なのでしょう。

環境報告にもあるように、各委員会の活動と具体的な目標が掲げられ、LCAを考慮に入れながらマテリアルフローコスト会計や「ECO-SYS」の導入など、積極的に環境活動と経営の一体化を試みている点でも、まさに攻めに入っていると言えます。

経済・社会性では、品質保証及び改善への取り組みに対しグループ全体で顔が見える形となって進められている点や、次世代育成支援といったワーク・ライフ・バランスへの取り組みなどから、人やコミュニケーションの重要性の認識と期待が伺えます。

全体的に各箇所でのビジュアルの使用や多すぎない文字数の配慮など、わかりやすく工夫されていて読者への思いやりが感じられました。データについても、Q&A方式の内部に組み込み、単なる答えだけではなく、その裏づけとして説得力を増し、Q&A自体がその先に目指す問題提起をしっかりと誘導されている点も評価できます。

そこでさらに深みを増すために、発言なさっている各部

署の方々のコメントは今後目指す目標が多く掲げられておりますので、その達成度合いの評価が次の報告書などに反映されると良いのではないのでしょうか。さらに、本年度より取り組まれている新たな試みや導入に合わせて、いかに通常の業務に負荷をかけずに浸透させていくのか、その教育のあり方や導入方法の検討はグループ全体として努力が必要になることでしょうか。

常に目標の設定のみならず、フィードバックすることも大切です。製品への環境負荷や各サイトでの算出結果など過去数年間の比較があるとわかりやすいと思います。達成すべき課題があれば目標値への達成度を可視化し、今どの位置にいるのかのステップを明確にし具体的な指針が打ち出されることは、社員をはじめ働き手としても心強くなるのではないのでしょうか。

随所に考え方が添えられストーリー性もありますので、日々の活動の結果、社会的にどのような会社として評価されているのか、このまとめがトピックスでの活動や受賞の報告に繋がっている点は関係者への光となることでしょうか。

世界にとって光はなくてはならない存在です。未来へのステップに光を射し込み、明るく照らし続ける企業であるために国際的なネットワークを活かした環境コミュニケーションの継続と、日本を代表し世界に羽ばたく企業としての、ウシオ電機様ならではのご活躍を期待しております。

### 山口真奈美 プロフィール

環境教育・環境関連事業・審査監査などの業務及び研究を手がける。  
株式会社FEM 代表取締役。Control Union Certifications Japan 代表  
Control Unionにおける認証審査業務 (FSC・有機JAS・HACCP・Textile等)は、  
森林・繊維・農業・有機農産物・バイオマス・品質管理システムなど分野が多岐にわたる。  
経済学修士 (環境経済学)・学術修士 (環境科学)  
NPO法人 国産材 理事  
NPO法人 エコ・エコノミー協会 理事  
有限責任事業組合 ビジネス推進機構 理事長

## 第三者意見を受けて

ウシオ電機株式会社  
取締役 社長室長  
牛尾 志朗

企業の社会的責任は時代の変化によってより鮮明になり、多種多様な形で社会的課題が生まれています。当社は創業40周年を経た2004年に、第二の創生期と位置付け新しい事業戦略や組織改革を再スタートさせています。すでに約3年が経過しましたが、2007年度は環境の活動においても、2004年から進めてきた第1期ウシオ環境行動計画より第2期ウシオ環境行動計画への転換期にあたります。

ウシオはこれまでの守りを重視した環境保全活動から、さらに企業として、またメーカーとして重点を置くべき目標が定まった攻めの環境経営へ向けた深化を必要としました。また、今の社会の情勢やさまざまなステークホルダーのご意見を反映すべくまさに新たな挑戦にチャレンジするステップにありました。

この度、株式会社FEM 代表 山口 真奈美様に多くの持続可能性の発展のためのご意見を頂戴いたしました。特に当社が定めたビジョンとその課題や施策など、進めるべき方向として明確なコメントをいただき、改めて決意した次第です。また、これまでの足取りや積み重ねた実績を正しく振り返ること、さらにはその成果などをフィードバックすることによって、より活性化させることにつなげていきたいと考えます。

CO<sub>2</sub>の排出削減などでは、しっかりと実績を出すことはこれまで以上の努力も必要です。従来活動の進展にも引き続き取り組み、さらなるウシオグループの発展を今後も皆様にお伝えできるよう進めていく所存です。

山口様には改めて深く感謝申し上げますとともに、今後ともご支援ご鞭撻を賜れますようお願いいたします。

### 表紙について

「光の三原色」と環境の象徴である「若葉」をモチーフに、経済性報告(レッド)、社会性報告(ブルー)、環境報告(グリーン)をデザイン、2005年度版よりこの基本デザインを採用しています。この「USHIOサステナビリティレポート2007」では、背景のデザインからも世界に向けさらに地球に向け、力強く活動する様子を明るくデザインしました。明るい将来をイメージしています。



### 編集後記

これまでに2003年度の活動を報告する「USHIO環境報告書2004」を制作し、それ以後サステナビリティレポートに改め今回で3冊目の制作・発行となりました。「USHIOサステナビリティレポート2005」より、環境側面に加え経済側面・社会側面の取り組み、そしてCSR報告を盛り込みました。毎年少しずつですが段階のステップを踏むように、報告範囲や報告内容など拡充・充実していくことを念頭に編集してきました。また、いただいたご意見を反映すること、読みやすい紙面・構成にすることなどできる限りの努力をしてきました。

発刊にあたり、社内外を問わず多くの方々のご支援・ご協力、貴重なご意見をいただき制作できるものと改めて実感しております。厚く感謝・御礼申し上げます。

環境の活動をはじめとし、サステナブルな社会への貢献から実現に向け、本社コーポレート機能を活かしながら効果的・効率的な活動に展開。コミュニケーション強化を図りつつグループ一体となった力のある活動へ深化していく姿を、今後もステークホルダーの方々にお見せできるよう取り組んでまいります。

ここで紹介しきれなかった取り組みは、WEBサイトや社内報、UGNニュースなど他の媒体を通じて、これからも紹介していきます。より多くの方に、より長い期間継続してお読みいただき、これまで同様のご支援・ご指導、忌憚のないご意見をいただけますことをスタッフ一同願っております。

管理総括 社長室 環境マネジメント統括室  
ゼネラルマネージャー  
諸岡 勝